



平成30年度

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業  
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)

# 杜の都女性研究者 エンパワーメント推進事業 年次報告書



東北大学男女共同参画推進センター  
Tohoku University Center for Gender Equality Promotion  
〒980-0812 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1  
電話 022-217-6092



東北大学男女共同参画推進センター  
Tohoku University Center for Gender Equality Promotion



# 目 次

ご挨拶	01
<b>I 杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業の概要</b>	
<b>II 推進体制の確立</b>	
• 平成30年度女性研究者エンパワーメントタスクフォース（ETF）会議	06
• 東北大学男女共同参画アドバイザーリーボード委員会	08
<b>III ダイバーシティ研究環境整備のための取組</b>	
• 保育環境の充実	
青葉山みどり保育園 入園式	10
星の子保育園 入園式	10
• 学内保育施設WEBページのリニューアル	11
• 動画「東北大学における共同参画の推進～未来をTUMUG（つむぐ）～」	
英語版・日本語版の作成	12
• 第2回「研究環境に関するアンケート」調査の実施（概要）	13
• 女性教員の離職者を対象とした出口調査の実施	14
• 「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」実施に係る女性研究者支援制度	
<研究支援要員C型>	15
<b>IV 女性研究者の研究力及びリーダー育成の取組</b>	
• 第1回スキルアップセミナー 外部資金（科研費）獲得に向けて	16
• 第2回スキルアップセミナー 英語科学論文の書き方と英語プレゼンテーションのコツ	17
• 女性研究者顕彰制度の実施（第2回東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」）	18
• 「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」実施に係る女性研究者支援制度	
<「科学研究費助成事業」フォローアップ>	20
<国際学術論文作成のための英文校閲費用補助>	20
<b>V 女性研究者の採用と上位職への積極的登用へ向けた取組</b>	
• 第1回女性リーダー研修プログラム 沢柳フェローランチミーティング	
～大野総長から女性研究者へのメッセージ～	21
• 第2回女性リーダー研修プログラム マネジメントセミナー	
キャリアブランディングとしてのファッションー仕事で成功するための服とは？	22
• 平成30年度女性教員採用促進事業の実施	23

・「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業(H28～H33)」	
第4回・第5回管理職セミナー	24
・平成30年度介護セミナー	27
・第15回東北大学男女共同参画シンポジウム「DualCareerCouple」	28
・「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」実施に係る女性研究者支援制度	
<ダイバーシティ研究環境実現のための部局等による取組支援プログラム>	30
多元物質科学研究所	31

## VI 次世代の女性研究者育成の取組

・セミナー 研究者ってなに？「オープンキャンパス」編	32
・セミナー 研究者ってなに？「博士課程進学」編※多元研との共催	34

まとめ	35
-----	----

## VII 参考資料

1. 平成31年度 TUMUG支援事業・杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業 募集実施プログラム一覧	36
2. 東北大学男女共同参画推進センターリーフレット（日本語・英語）	37
3. 東北大学サイエンス・エンジェル活動報告2018	37
4. 東北大学男女共同参画推進センター [TUMUG]ニュースレター vol.12～14	38
5. TUMUGCafé（第8～9回）	38
6. 平成29年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現 イニシアティブ（特色型）杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業年次報告書	39
7. 基金パンフレット	39

## VIII アンケート結果

・研究環境アンケート結果報告（詳細）	40
--------------------	----

## ご挨拶



東北大学 総長  
大野 英男

東北大学は平成28年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)に採択されました。「杜の都女性研究者エンパワーメント促進事業」と名付けたこの事業は、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、女性研究者のライフイベントとワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や、女性研究者の研究力向上、および上位職への積極採用に向けた取組を支援するものです。

これまでも、本学では文部科学省の女性研究者支援事業や独自経費(総長裁量経費「男女共同参画・女性研究者支援事業」)によって女性研究者に焦点を当てた取組を展開してまいりました。こうした取組によって、女性教員比率は向上しつつありますが、国立大学全体の平均を下回っている状況にあります。(国立大学全体: 16.7%、東北大学: 12.2% (何れも平成30年5月現在))

このような現状も踏まえ、本学の第三期中期計画(平成28年度~平成33年度)においては、女性教員比率を19%に引き上げることを目指しています。この高い目標の達成に向けて本学では、優秀な女性研究者が長期に渡り安定かつ自立して研究することを可能とする環境の整備や、上位職への登用などを一層加速させる「女性教員採用促進事業」、さらには、優れた研究を展開する女性研究者の活躍を讃えることで、研究意欲の一層の増進に繋げ、世界トップリーダーとなることを期待して授与する「紫千代萩賞」の創設などの新たな事業にも取り組んでいます。

こうした本学の取組と「杜の都女性研究者エンパワーメント促進事業」の相乗効果によって、女性研究者がいきいきと活躍できる環境を整えることで、多様な視点を持った研究者が活発な活動を展開し、本学の研究力の向上につながることを期待します。



## Ⅰ 社の都女性研究者エンパワーメント推進事業の概要

以下の5つの目標を達成するために行動計画に従って、ダイバーシティ研究環境を実現するための取組を進めていきます。

### 本事業の目標

- 目標1 女性教員在籍率19%を目指す。
- 目標2 新規採用教員に占める女性比率30%を目指す。
- 目標3 教授・准教授の女性比率10%を目指す。
- 目標4 役員等での女性比率10%を目指す。
- 目標5 女子学生の研究者志望への意識向上および男性も含めた人的ダイバーシティへの意識醸成を行う。

### 事業期間中の目標値

※1上位職…教授・准教授相当  
※2役員等…総長特別補佐を含む

	H28	H29	H30	H31	H32	H33
在籍教員における女性比率	12%	13%	14.3%	15%	17%	19%
新規採用における女性比率	16%	18%	20%	23%	26%	30%
上位職 <sup>※1</sup> における女性比率	7.5%	8%	8.5%	9%	9.5%	10%
役員等 <sup>※2</sup> における女性比率	3.8%	5.7%	5.7%	7.5%	9.4%	10%

### 行動計画

	H28	H29	H30	H31	H32	H33
ダイバーシティ研究環境整備のための取組	施策の検討		支援策の実施			評価・改善
	実施の検討		定期的な評価活動・取組への反映			
	施策の検討		学生・大学院生の育成支援の実施			評価・改善
女性研究者の研究力向上のための取組	URA配属		女性研究者のためのURAによる研究支援			評価・改善
	施策の検討		研究力育成・向上のためのセミナー等開催			
	実施の検討		研究業績の表彰および研究費支援			
女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組	施策の検討		採用・昇任選考標準の実施			評価・改善
	実施の検討		意識啓発活動			
	実施の検討		メンタリング支援			

### 第三期中期目標・中期計画（抜粋） 男女共同・協働の実現

No.60 次世代の学生の教育を担う機関として男女共同・協働を実現するため、「東北大学における男女共同参画推進のための行動指針」に基づく総合的・計画的な取組を推進し、第3期中期目標期間中に、女性教員比率を19%に引き上げることを目指した採用等の取組及び管理職等（課長補佐級以上）の女性職員比率を15%に引き上げることを目指した育成等の取組を強化する。

### 女性活躍推進法に基づく 一般事業主行動計画（抜粋）

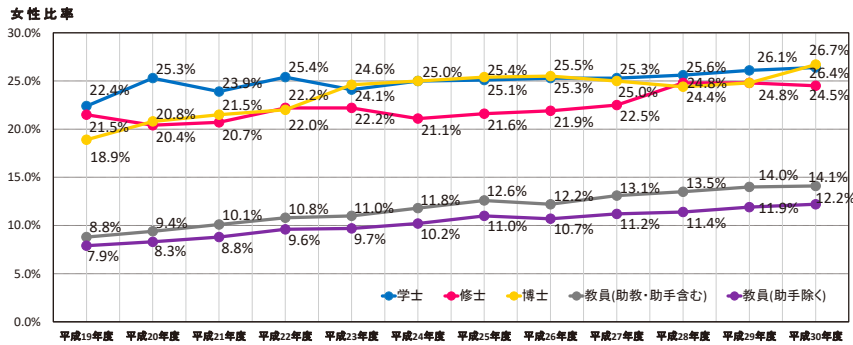
**目標** 管理職等（課長補佐級以上）の女性職員比率を15%へ引き上げることを目指す。

《取組1》 女性のキャリア形成の阻害の要因の一つである労働環境の改善を実施する。

《取組2》 女性教員を対象として管理職育成を目的としたキャリア研修を実施する。

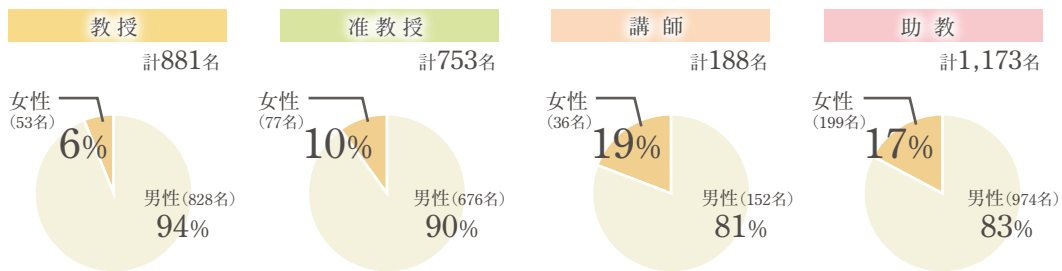
## 東北大学における在籍教員・学生の女性比率 (平成30年5月1日現在)

東北大学では文部科学省の女性研究者支援事業による支援や独自経費（総長裁量経費「男女共同参画・女性研究者支援事業」）による女性研究者に焦点を当てた取組により、女性教員数は着実に増加していますが、国立大学全体の平均（平成30年度16.7%）から見ると遅れをとっている現状にあります。



## 東北大学における男女構成比

男性 女性 (平成30年5月1日現在)



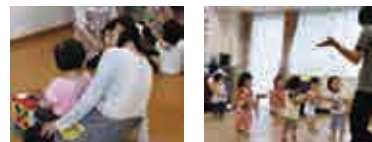
## これまでの実績

### 都の女性科学者ハードリング支援事業

平成18年度～平成20年度…女性研究者支援モデル育成事業

女性科学者のキャリアパスにおける障害（ハードル）を乗り越えるための取組

- 育児介護支援プログラム
- 環境整備プログラム
- 次世代支援プログラム



東北大学学内保育園:星の子保育園

### 都のジャンプアップ事業for2013

平成21年度～平成25年度…女性研究者養成システム改革加速事業

自然科学系の女性研究者を採用・育成するための取組

- 世界トップクラス研究リーダー養成プログラム
- 新ネットワーク創生プログラム
- 研究スタイル確立支援プログラム

#### 平成29年度までの支援実績

研究支援要員制度	のべ112名
ベビーシッター利用料等補助	のべ273名
川内けやき保育園	のべ384名
星の子保育園	のべ190名
星の子ルーム(病後児保育)	のべ5,354名

注：平成18年度から。ただし、川内けやき保育園は平成17年度、星の子保育園は平成22年度、星の子ルームは平成15年度から。

## 推進事業の紹介

「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」では、女性研究者のキャリア段階にあった以下の取組を行い、ダイバーシティ研究環境実現の達成を目指します。



「推進します！！ 東北大エンパワーメント」

## 東北大学における男女共同参画のあゆみ

- 1913年 我が国の大学として初めて女性に門戸開放。
- 2001年 東北大学男女共同参画委員会設置。
- 2002年 男女共同参画推進のための東北大学宣言。
- 2003年 21世紀COEプログラム「男女共同参画社会の法と政策」採択（実施期間5年）。  
男女共同参画奨励賞（通称：澤柳賞）創設。  
各部局に「男女共同参画ワーキンググループ」設置。
- 2005年 学内保育所「川内けやき保育園」開設。
- 2006年 「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」採択。
- 2008年 グローバルCOE「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」が採択（実施期間：5年）。  
「育児のための短時間勤務制度」、「育児休業等の取得による任期の延長」制度化。
- 2009年 2番目の学内保育所「星の子保育園」拡充（星陵地区）。  
「杜の都ジャンプアップ事業for2013」採択。
- 2013年 東北大学女子学生入学100周年記念事業。  
東北大学における男女共同参画推進のための行動指針。
- 2014年 東北大学男女共同参画推進センター開設。
- 2016年 「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」採択。
- 2017年 女性教育採用促進事業の実施。
- 2017年 紫千代萩賞（むらさきせんだいはぎしょう）の新設。
- 2018年 学内保育所「青葉山みどり保育園」開設、「星の子保育園」拡充。
- 2018年 全国ダイバーシティネットワーク組織 東北ブロック会議の設置。



黒田チカ 牧田らく 丹下ウメ

日本初の「女子学生」



大隅センター長（左から3番目）、副センター長 およびセンタースタッフ

## II

## 推進体制の確立

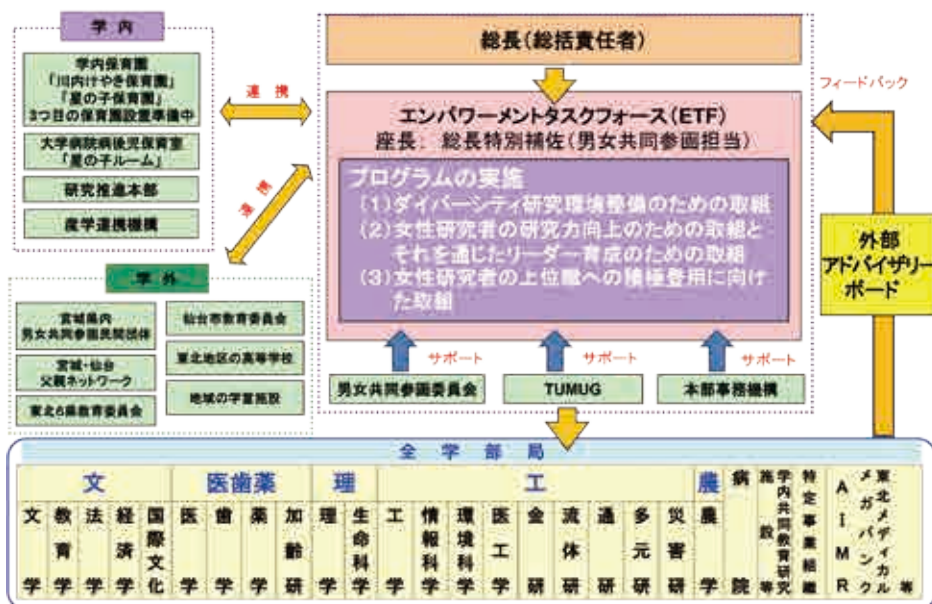


実施責任者  
女性研究者エンパワーメントタスクフォース（ETF）座長  
**大隅 典子**

副学長（広報・共同参画担当）  
男女共同参画推進センター長  
男女共同参画委員会 委員長  
医学系研究科 教授  
附属創生応用医学研究センター長

ダイバーシティ研究環境整備に向けた取組を行う本事業は、総括責任者である総長の下に組織する「女性研究者エンパワーメントタスクフォース（ETF）」が中心となり、男女共同参画委員会および、男女共同参画推進センター（TUMUG）と一体となって行っています。事業および本学における男女共同参画の取組全体の妥当性および進捗状況については、外部有識者により構成されるアドバイザリーボードから専門的かつ中立的な助言を受けています。

### 実施体制





# 平成30年度女性研究者エンパワーメントタスク フォース（ETF）会議

## 平成30年度女性研究者エンパワーメントタスクフォース（ETF）名簿

部局	役職	氏名
男女共同参画推進センター 医学系研究科	副学長（広報・共同参画担当） センター長 教授	大隅 典子
男女共同参画推進センター 医工学研究科	総長特別補佐（共同参画担当） 副センター長 教授	田中 真美
男女共同参画推進センター 高度教養教育・学生支援機構	総長特別補佐（共同参画担当） 副センター長 教授	芳賀 満
男女共同参画推進センター 多元物質科学研究所	副センター長 教授	永次 史
文学研究科	教授	才田いずみ
理学研究科	教授	中村美千彦
工学研究科	教授	持田 灯
農学研究科	教授	伊藤 房雄
情報科学研究科	教授	村上 斉
男女共同参画推進センター	特任講師（主任URA）	藤村 維子
男女共同参画推進センター	特任助教（運営）	瀬戸 文美
総務企画部	部長	齋藤 仁
人事企画部	部長	成田 邦彦

※太枠は座長

## 第1回

---

- 1.日 時：平成30年9月3日（月）10:00～11:00
- 2.場 所：東北大学片平キャンパス 本部本館3階 第一会議室
- 3.出席者：大隅センター長、田中副センター長、芳賀副センター長、永次副センター長、才田教授（文）、中村教授（理）、伊藤教授（農）、村上教授（情報）、藤村主任URA（TUMUG）、瀬戸助教（TUMUG）、齋藤部長（総務企画部）、成田部長（人事企画部）  
欠席者：持田教授（工）  
陪席者：高木課長（総務企画部総務課）、吉田課長補佐（総務企画部総務課）、村上専門職員（総務企画部総務課）
- 4.議 題：(1)共同参画に係る支援事業の成果および本学の現状について  
(2)女性教員比率の目標値達成に向けた取組例について  
(3)女性教員比率の目標値達成に向けた今後の施策について  
(4)その他

## 第2回

---

- 1.日 時：平成31年2月28日（木）13:30～14:30
- 2.場 所：東北大学片平キャンパス 本部本館3階 第二会議室
- 3.出席者：大隅センター長、田中副センター長、永次副センター長、才田教授（文）、中村教授（理）、持田教授（工）、伊藤教授（農）、村上教授（情報）、齋藤部長（総務企画部）、成田部長（人事企画部）  
欠席者：芳賀副センター長、藤村主任URA（TUMUG）、瀬戸助教（TUMUG）  
陪席者：高木課長（総務企画部総務課）、吉田課長補佐（総務企画部総務課）、村上専門職員（総務企画部総務課）
- 4.議 題：(1)平成30年度「東北大学女性教員採用促進事業」の実施報告  
(2)平成31年度「東北大学女性教員採用促進事業」の募集  
(3)女性教員比率の目標値達成に向けた今後の施策  
(4)その他

# 【 東北大学男女共同参画アドバイザーボード委員会 】

## 第1回

1.日 時：平成30年10月22日（月）15:00～16:30

2.場 所：ステーションコンファレンス東京JR東京駅日本橋口ビル6階605A

3.出席者：○アドバイザーボード委員

委員長 山 田 秀 雄（弁護士 山田・尾崎法律事務所）

佐 藤 恭 子（公益社団法人 日本経済研究センター研究本部長）

高 橋 陵 子（内閣府 男女共同参画局推進課課長補佐 仕事と生活の調和推進室）

東 村 博 子（名古屋大学副理事（男女共同参画担当）

前 田 瑞 夫（理化学研究所 主任研究員）

○本学関係者

大 隅 典 子（副学長（広報・共同参画担当）男女共同参画推進センター長）

田 中 真 美（男女共同参画推進センター副センター長 医工学研究科 教授）

芳 賀 満（男女共同参画推進センター副センター長 高度教養教育・学生支援機構 教授）

永 次 史（男女共同参画推進センター副センター長 多元物質科学研究所 教授）

藤 村 維 子（男女共同参画推進センター特任講師（主任リサーチ・アドミニストレータ））

高 木 雅 弘（総務企画部総務課長）

吉 田 靖 生（総務企画部総務課長補佐）

村 上 亜矢子（総務企画部総務課専門職員）

4.議題：(1)平成29年度「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」  
年次報告

(2)平成30年度「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」  
について

①補助金交付決定通知書

②年間活動計画について

③前期（4月～9月）事業報告

(3)東北大学女性教員採用促進事業の実施について

(4)その他



## 第2回

---

1.日 時：平成31年2月26日（火）15:30～17:00

2.場 所：東北大学 東京分室

3.出席者：○アドバイザーボード委員

委員長 山田 秀雄（弁護士 山田・尾崎法律事務所）

梅田 恵（日本IBM株式会社 人事広報担当部長兼ダイバーシティ担当）

鹿嶋 敬（一般財団法人女性労働協会 会長兼専務理事）

高橋 陵子（内閣府 男女共同参画局推進課課長補佐 仕事と生活の調和推進室）

東村 博子（名古屋大学 副理事（男女共同参画担当））

前田 瑞夫（理化学研究所 主任研究員）

宗片 恵美子（特定非営利活動法人イコールネット仙台 代表理事）

○本学関係者

大隅 典子（副学長（広報・共同参画担当）男女共同参画推進センター長）

田中 真美（男女共同参画推進センター副センター長 医工学研究科 教授）

芳賀 満（男女共同参画推進センター副センター長 高度教養教育・学生支援機構 教授）

永次 史（男女共同参画推進センター副センター長 多元物質科学研究所 教授）

高木 雅弘（総務企画部総務課長）

吉田 靖生（総務企画部総務課長補佐）

村上 亜矢子（総務企画部総務課専門職員）

4.議題：(1)平成30年度「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」

①事業計画書

②年間活動計画

③後期（10月～3月）事業報告

(2)平成30年度東北大学女性教員採用促進事業の実施報告

(3)平成31年度東北大学女性教員採用促進事業の募集

(4)全国ダイバーシティネットワーク組織

(5)その他

### Ⅲ

## ダイバーシティ研究環境整備のための取組

### 保育環境の充実

教職員及び学生の仕事や研究と育児の両立を支援するため、学内の保育環境充実を図ることとし、青葉山新キャンパスに「青葉山みどり保育園」を新設するとともに、星陵地区の「星の子保育園」を拡充して新設し、平成30年4月から新たに開園しました。

これにより、「川内けやき保育園」、「青葉山みどり保育園」、「星の子保育園」を合計した入園定員は、250名まで拡充しています。

#### 青葉山みどり保育園 入園式

平成30年4月2日(月)、東北大学青葉山みどり保育園入園式を執り行いました。

富沢ゆかり青葉山みどり保育園園長の式辞に始まり、東北大学大槻達也理事(代理：田中真美教授)、成澤美香アートチャイルドケア代表取締役より、お祝いの言葉をいただきました。

保育士による出し物を子供たちと一緒に楽しんだ後、職員紹介や新入園児紹介が行われ、園歌の「おひさまパワー1・2・3」を元気いっぱいに歌って閉式いたしました。

塩釜市の段ボール箱製造・販売の「佐貞商店」さんからご寄付いただいたダンボールで作成されたアーチをくぐり、子供、両親とも終始笑顔での入園式となりました。



#### 星の子保育園 入園式

平成30年4月9日、星の子保育園入園式を執り行いました。

佐藤寿子星の子保育園園長による式辞に始まり、八重樫伸生東北大学病院長、村田省三アートチャイルド

ケア株式会社代表取締役社長よりそれぞれお祝いの言葉をいただきました。保育園の紹介では、故吉村しげを様邸が星の子保育園に生まれ変わった様子がビデオ映像で流れ、保護者の方はもちろん参加者は皆感動した様子で見入っていました。

さらに、保育士による絵本「はらぺこあおむし」の出し物と職員紹介が行われた後、新入园児が紹介され、名前を呼ばれた園児たちは元気いっぱい返事をしていました。最後は園歌「おひさまパワー1・2・3」を全員で歌い、閉式となりました。

今年は仙台市内の桜の開花が予想より早まりましたが、園内の桜はまるで入园式を待っていていたかのような咲きぶりでした。入园式を終えた園内では、園児たちの元気な声が早速響き渡っていました。



## 【 学内保育施設WEBページのリニューアル 】

青葉山みどり保育園の開園に伴い、学内保育施設のWEBページをリニューアルいたしました。

留学生等も利用できるよう、英語サイトも併せて公開しております。

入园状況も随時更新しておりますので、ぜひご覧ください。

<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/somu/hoiku/>



## 【 動画「東北大学における共同参画の推進 ～未来をTUMUG（つむぐ）～」英語版・日本語版の作成 】

大野英男総長、大隅典子センター長をはじめ、7名の研究者が登場し、本学の共同参画に向けた支援制度や充実した研究環境について紹介する動画を日本語版と英語版で作成し、9月に公開しました。



- ▶ 日本語版 <https://youtu.be/lgpQy8R0-gM>
- ▶ 英語版 <https://youtu.be/c6onZFoK-sM>
- ▶ 視聴回数（3月18日現在）  
日本語版：1815回、英語版：239回

日本語版



英語版



[制作期間] 平成30年4月～9月  
[公開日] 日本語：平成30年9月6日  
英語：平成30年10月14日



## 第2回「研究環境に関するアンケート」調査の実施（概要）

- 【目的】 東北大学の研究職を取り巻く研究環境の実態を明らかにするとともに、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）の取組の周知の機会となることを期待して実施した。前回実施した、平成28年度の第1回に続き2年に一度の調査を継続的に実施することで、研究者の研究環境の実態とその変化を明らかにし、今後の事業実施に生かすことを目的とする。
- 【方法】 アンケート調査の質問項目をWeb上に掲載し、学内伝達フローにより教職員に連絡、URL上で回答を得た（無記名、しかし、結果報告を希望する場合のみメールアドレスを入力）。対象者には、各部局事務担当者を通じて周知を図る一方で、部局長や男女共同参画委員会委員、女性研究者に対して実施協力を別途依頼した。
- 【対象】 東北大学教職員のうち以下に掲げる者（非常勤を含む）  
教授、准教授、講師、助教、助手（特任を含む）  
その他、研究を主な職務とする職員
- 【調査期間】 平成30年12月14日～平成31年1月15日
- 【調査項目】 セクションA 基礎事項  
セクションB 研究キャリア  
セクションC ライフ関連  
セクションD 男女共同参画・女性研究者支援
- 【回収率】 14.3%（回答数:638名、全対象者数:4,473名）

本アンケート結果の詳細は、巻末（42ページから56ページ）ならびに、東北大学男女共同参画推進センター HP（URL:<http://www.tumug.tohoku.ac.jp/>）内の、平成30年度第2回「研究環境に関するアンケート」実施報告の項をご参照下さい。

**研究者を対象にした研究環境に関するアンケート調査**

東北大学の研究者の皆様におかれましては、日頃より男女共同参画に関する業務について、ご支援ご協力をいただきありがとうございます。

本学は、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に採択され、平成28年度から平成33年度までの6年間にわたり「都道府県女性研究者エンパワーメント推進事業」を推進しております。つきましては、2年に1回の調査により研究者の皆様の研究環境の実態を明らかにし、今後の事業実施に生かしていきたいと思っております。所要時間は約10分です。お忙しい中を恐縮ですが、本アンケート調査にご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

平成30年12月吉日  
副学長（広報・共同参画担当）  
男女共同参画推進センター長  
大隅 典子

**回答上の注意**

- ・ご回答は以下のウェブサイトから入力して下さい（回答期間：12月14日（金）～1月8日（火））。
- <https://goo.gl/forms/mnWSeYpKASRIktT2>
- ・特に指示のない限り、回答は選択肢から1つを選んで回答してください。
- ・「その他」等の選択肢では、具体的な内容を記入してください。
- ・調査結果は、回答者が特定されないように統計処理を行った上で公表いたします。自由記載欄については、個人を特定できない形で男女共同参画委員会報告書等に転記させていただきます。ご了承ください。

**アンケート対象者は以下の方です。**

本学教職員のうち以下に掲げる者（非常勤を含む）  
教授、准教授、講師、助教、助手（特任を含む）  
その他、研究を主な職務とする職員



## 女性教員の離職者を対象とした出口調査の実施

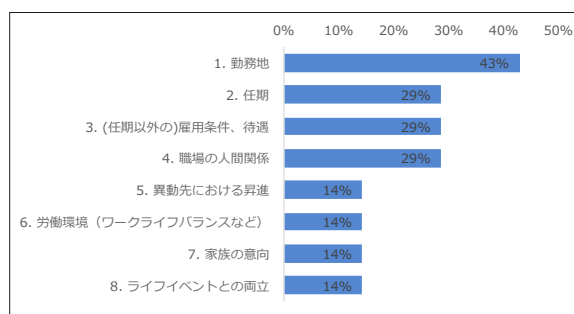
- 【A. 調査の目的】 東北大学を離職した女性教員について、実態および離職理由を解析し、離職にいたった原因や理由について調査分析し、必要とされる支援や今後の課題を明らかにする。共同参画・女性研究者支援に係る取り組みを効果的に実施・推進するための調査分析資料として用いることを目的とする。
- 【B. 方法】 東北大学を離れた原因について、本学を離職した女性教員に対して、在職時に登録されていたEメールアドレスへ質問を配信し、対象者の一部から回答を得た。
- 【C. 対象者】 東北大学に所属した助教以上の女性教員で、平成27年度～29年度に離職した108名。  
(平成30年度の離職教員については、各部局へ情報提供を依頼して引き続き調査を継続中(平成31年2月現在)。)
- 【D. 実施期間】 平成30年10月～11月
- 【E. 回答状況】 対象者108名の中で、メール配信可能であった30名のアドレスに、質問を配信したところ、その内の8名から回答を得た。

### 【G. 結果】

質問1、本学の教員を離職した理由および原因について、差し支えなければ、以下に詳細をお知らせください。

- ・新しい赴任先が見つかったため(4名)
- ・任期終了のため(1名)
- ・介護の問題(1名)

質問2、本学の教員を離職した理由や原因として、関係のある項目を選んでください(複数回答可)。



質問2 (複数回答可、有効回答者数7名)

質問3、本学に対して望むこと、その他、ご意見(自由記述)

- ・女性教員だけでなく、子供の養育を担う男性教員への支援もお願いします。
- ・性別関係なく、自由度の高い正規のポジションを増やしてほしい。
- ・科研費フォローアップ制度は非常に助かり、次のグラントの足がかりにもなったので、ぜひ続けてほしい。
- ・女性が少ない工学部の研究室に一時期所属していましたが、居辛さを感じる女子学生を見て胸を痛めていました。
- ・理系の研究室は大部屋が多く、男性の多い部屋ですずっと仕事をするのが本当に嫌で、個室か、あるいは違う研究室の女性研究者が集まって仕事できるような、快適で落ち着いた仕事環境がほしかったです。
- ・子育て・介護をしながら研究者として邁進できるような環境支援づくりを東北大発で開発していただければと思います。
- ・若手女性研究者が、確実なポジションで成長できるような支援を今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」実施に係る女性研究者支援制度

### <研究支援要員C型>

研究者が、出産・育児・介護等（以後育児等とする）を理由に研究を断念することがないように、研究と育児等の両立を目的として、研究支援要員（RA、AA）の雇用を補助する（C型と称す）。研究支援要員の利用による支援を受けて研究を継続することで、採択者が研究者として成長し、ステップアップすることを期待する。

### 平成30年度募集実施プログラム

項目	プログラム名	内容	対象者	平成30年度申請数	平成30年度採択数
両立支援	研究支援要員（C型）	博士後期課程院生をリサーチ・アシスタント（RA）ないしはアドミニストレイティブ・アシスタント（AA）として雇用するために必要な人件費を補助	出産・育児・介護等を行う女性教員	6人	6人

### 利用者からの声

- 本制度は大学院博士後期課程の学生しか雇用できなく、博士後期課程の学生はもともと研究の負担が重いため、研究内容に携わる学生でなければ、逆に雇用しにくい（支援要員の確保しにくい）のではないかと思います。実際、センターが本制度（研究支援要員C型）を作り上げた趣旨としてはこの辺の配慮（指導学生を雇用することはありなのか？よくないのか？）改めて考えるようになり、伺いたくなりました。
- この度は研究支援要員制度による支援を受け、大変感謝しております。

一人の研究者が、業務の支援を受けるということはハードルが高いことと考えます。このような制度の補助を受け、研究支援要員を雇用するという経験ができたことに非常に感謝しております。

研究費の用途として人件費としての支援要員の雇用を継続していきたいと思っています。

今後ともご支援いただけますよう宜しくお願いいたします。



## 女性研究者の研究力及びリーダー育成の取組

### 第1回スキルアップセミナー 外部資金（科研費）獲得に向けて

#### 実施内容

日時：平成30年9月3日（月）12:00～13:30

会場：東北大学片平キャンパス 生命科学研究所 講義室A

対象：女性教員・女性研究者

参加人数：25名

概要：9月に始まる科学研究費申請受付にあわせ、外部資金獲得のためのセミナーを兼ねた、沢柳フェローランチミーティングを開催しました。今回は栗原和枝教授（未来科学技術共同研究センター）をお招きし、平成31年度の最新情報や申請時のポイント、今後の動向についてお話しいただきました。その後、副センター長の田中真美教授（工学/医工学研究科）、永次史教授（多元物質科学研究所）、沢柳フェローの戸田雅子教授（農学研究科）、滝澤沙矢子教授（法学研究科）より申請時に有用なアドバイスを頂き、質疑応答が行われました。

#### 参加者の声：

- ・平成31年度科研費の新しい情報を伺えて良かった。
- ・具体的な調書改善例（Before・After）があるとより分かりやすかったです。
- ・昨年と同様、質疑応答の場でシンプルで大切なことを上位職の先生方が繰り返されていたことは重要なことだと感じました。（後略）



## 第2回スキルアップセミナー 英語科学論文の書き方と英語プレゼンテーションのコツ

### 実施内容

日時：平成30年10月31日（水）15:00～17:00 11月1日（木）10:00～12:00

会場：東北大学片平キャンパス 片平北門会館 エスパス

対象：学部学生、大学院生、若手研究者、その他教職員

参加人数：2日間合計51名（関係者含む）（1日目:33名、2日目:18名）

概要：東北大学の「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」では、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるために、次世代の女性研究者育成と女性研究者の研究力向上のための取組を支援しています。昨年度に引き続き、今年度も長年英語論文の校閲に携わり著書も数多く出版されている野口ジュディー津多江先生をお迎えし、英語科学論文を執筆する際のポイント、英語による科学発表時の準備方法などを解説して頂きました。

プログラム：

1日目：「ESP（English for Specific Purpose）の概念とツールの紹介」

「論文のタイトル分析と自分の論文のタイトル作成」ほか

2日目：「グループでレシテーションの練習」

「自分の研究のサイエンスニュースを発表する」ほか

参加者の声：

- 英語論文作成または発表をする時に、よく使うacademic phraseなどのcorpusについて学ぶことができ、研究者には実際的にすごく役に立つ講演でした。今から、学んだことを活用し、論文作成を試みます！
- 大勢の前で英語で話す経験がなかったので、思った以上に舌が回らないなど課題がたくさん見つかって、海外の学会に行く前に受講できてよかったですと思いました。
- これまで知らなかったコーパスツール活用法と文献管理法をご教授いただき、勉強になりました。今後の論文作成に役立ってます。



## 女性研究者顕彰制度の実施 (第2回東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」)

### 概要

前年度より杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業の一環として、東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」を実施しています。第2回となる今年度は、合計18名の申請を受け、人文・社会科学分野、理学・工学分野、農学・生命科学分野、医歯薬学・保健分野の4分野から各1名、合計4名の受賞が決定しました。受賞者は3月18日（月）に、表彰式ならびに管理職セミナーにおける研究発表会を実施しました。

### 賞の趣旨・目的

本賞は、東北大学において優れた研究を展開する女性研究者に対しその活躍を讃えることで、研究意欲の一層の増進に繋げ、世界トップリーダーとなるような女性研究者の育成を目的とします。同時に、本賞の授与により女性研究者の活躍を促進することで、本学の研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出に繋げることを目的とします。

### 応募条件

対象は本学に所属する女性研究者（准教授・講師・助教の他、研究を職務に含んでいる者。博士研究員等を含む）とし、学術上優れた研究成果を挙げたと認められる者としてします。なお、教授（特任を含む）・学生は応募できません。また、本学の直接雇用以外の場合、副賞（研究費）を配分できない場合がございます。

### 表彰の方法、専門分野ならびに件数

受賞者には、表彰状ならびに副賞（研究教育費として1名あたり25万円）を授与します。受賞者は、人文・社会科学分野、理学・工学分野、農学・生命科学分野、医歯薬学・保健分野の4分野から各1名以内とします。

### 募集期間

平成30年8月2日（木）から10月5日（金）17時まで

### 賞の名前について

「紫」は本学のスクールカラーであるとともに知性と創造力を象徴する高貴な色であり、「千代」は城下町が開かれる前の仙台の旧表記であるとともに、大変長い年月のことを指し、「萩」本学のロゴマークにも使われている仙台を象徴する植物です。

これらより、仙台にあって千代にも続く知と創造をもたらすという願いを込めて、本賞に「紫千代萩」を名付けました。

平成30年度東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」 受賞者一覧

研究分野	受賞者			業績名
	氏名	所属	役職	
人文・社会科学	石綿 はる美 イシワタ ハルミ	法学研究科	准教授	遺言における受遺者の処分権の行使の制限についての研究
理学・工学	福泉 麗佳 フクイヅミ レイカ	情報科学研究科	准教授	確率効果をもつ非線形分散型方程式の研究
農学・生命科学	矢野 優花里 ヤノ ユカリ	生命科学研究科	助教	立体構造解析に基づいたタンパク質機能の解明
医歯薬学・保健	落合 恭子 オチアイ キョウコ	医学系研究科	助教	免疫細胞分化を制御する遺伝子発現ネットワーク解明の研究

**第20回東北大学優秀女性研究者賞**  
**紫千代萩賞**

**賞状の授与：賞状授与をぜひお見逃しなさい**  
賞状は、東北大学入賞者に対して、賞状授与式にて授与されます。授与式は、毎年10月15日（土）に東北大学大ホールにて行われます。入賞者は、授与式当日、東北大学大ホールに集合し、授与式に参加してください。入賞者には、賞状と賞状額状が授与されます。賞状額状は、授与式当日、東北大学大ホールにて授与されます。賞状額状は、授与式当日、東北大学大ホールにて授与されます。

**応募資格**  
東北大学に所属する女性研究者  
東北大学に所属する女性研究者として、東北大学に所属し、研究活動に従事していること  
東北大学に所属する女性研究者として、東北大学に所属し、研究活動に従事していること  
東北大学に所属する女性研究者として、東北大学に所属し、研究活動に従事していること

**賞状の授与：賞状授与をぜひお見逃しなさい**  
賞状は、東北大学入賞者に対して、賞状授与式にて授与されます。授与式は、毎年10月15日（土）に東北大学大ホールにて行われます。入賞者は、授与式当日、東北大学大ホールに集合し、授与式に参加してください。入賞者には、賞状と賞状額状が授与されます。賞状額状は、授与式当日、東北大学大ホールにて授与されます。賞状額状は、授与式当日、東北大学大ホールにて授与されます。

**応募方法**  
東北大学に所属する女性研究者として、東北大学に所属し、研究活動に従事していること  
東北大学に所属する女性研究者として、東北大学に所属し、研究活動に従事していること  
東北大学に所属する女性研究者として、東北大学に所属し、研究活動に従事していること

**応募期間**  
平成30年9月18日（水）～10月15日（土）

**応募先**  
東北大学入賞者センター（TEL）022-261-2000  
〒980-8577 仙台市青葉区大森1-1-1  
東北大学入賞者センター  
〒980-8577 仙台市青葉区大森1-1-1

**お問い合わせ**  
東北大学入賞者センター（TEL）022-261-2000  
〒980-8577 仙台市青葉区大森1-1-1  
東北大学入賞者センター  
〒980-8577 仙台市青葉区大森1-1-1

**賞状の授与：賞状授与をぜひお見逃しなさい**  
賞状は、東北大学入賞者に対して、賞状授与式にて授与されます。授与式は、毎年10月15日（土）に東北大学大ホールにて行われます。入賞者は、授与式当日、東北大学大ホールに集合し、授与式に参加してください。入賞者には、賞状と賞状額状が授与されます。賞状額状は、授与式当日、東北大学大ホールにて授与されます。賞状額状は、授与式当日、東北大学大ホールにて授与されます。



# 「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」 実施に係る女性研究者支援制度

## <「科学研究費助成事業」フォローアップ>

世界トップリーダーとなるような広い学問領域を見渡せる女性リーダーの育成を目的として、継続的な研究推進のための科学研究費助成事業のフォローアップを行う。採択者の研究が途絶することなく継続でき、今後も自ら外部資金の獲得に挑戦するなど、研究者としての意欲と能力の向上を期待する。

## <国際学術論文作成のための英文校閲費用補助>

世界トップリーダーとなるような広い学問領域を見渡せる女性リーダーの育成を目的として、研究成果を国際的な学術論文として発表するための英文校閲費用を補助する。本制度採択者の国際的な評価となる研究業績を向上させるなど、研究者としての成長とスキルアップを期待する。

### 平成30年度募集実施プログラム

項目	プログラム名	内容	対象者	平成30年度 申請数	平成30年度 採択数
女性リーダー 育成	「科学研究費助成 事業」フォロー アップ	科学研究費助成事業に応募したものの不採択となった研究課題について、当該研究費の一部を支援	女性の教員（准教授、講師、助教、助手）およびポストドク（教育研究支援者など）	12人	8人
女性リーダー 育成	国際学術論文作 成のための英文 校閲費用補助	国際学術誌への論文投稿のための英文校閲費用を補助	女性教員（准教授、講師、助教、助手）	第1回 2人 第2回 4人 第3回 3人 第4回 10人	第1回 2人 第2回 4人 第3回 3人 第4回 10人

### 利用者からの声

#### 【フォローアップ】

- ・本年度は新たな研究室にて助教として正式に着任し、新しい研究テーマに着手する中、研究遂行に際してご支援をいただくことができ大きな救いとなりました。所属研究室の人事異動に伴い研究環境が大きく変遷する中において、これまでの研究を継続的に進めながら新たな分野にも挑戦する機会をいただけたことは、自身の研究人生においても重要な意義がありました。この場をお借りして、本制度ならびにご支援をいただいた全ての方々に心より深く御礼申し上げます。

#### 【英文校閲】

- ・研究成果を国際的な学術論文に投稿するためのスキルは、一朝一夕に身につくものではないので、本制度を利用して英文校閲を経て、継続的に学術論文投稿の機会を作ることが重要であると思います。個別にいい研究成果をあげても、国際的な評価を得るためには、学術誌への研究成果の投稿は必須です。また、英語が母国語ではないため、質の高い論文に仕上げるためには、英文校閲も必須です。今後も、本制度が継続されることを願います。



## 女性研究者の採用と上位職への積極的登用へ向けた取組

### 第1回女性リーダー研修プログラム

#### 沢柳フェローランチミーティング～大野総長から女性研究者へのメッセージ～

#### 実施内容

日時：平成30年7月5日（木）12：00～13:30

会場：東北大学青葉山キャンパス 青葉山みどり厚生会館1階 “Buddy'sTable”

対象：本学女性研究者（教授、准教授、助教、助手、ポスドク（教育研究支援者など）、その他教職員  
および大学院生

参加人数：73名

概要：平成28年度、東北大学の「杜の都女性研究者エンパワメント推進事業」が文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）に採択されました。そこで今回は、本事業の総括責任者である大野英男総長をお招きし、沢柳フェローランチミーティングを開催しました。まず、大隅典子センター長より開会のご挨拶をいただき、本事業の総括責任者である大野英男総長より女性研究者に向けたメッセージを発信していただきました。その後、芳賀満副センター長（高度教養教育・学生支援機構教授）から乾杯のご発声をいただき、田中真美副センター長（医工学研究科/工学研究科教授）より本学で実施している男女共同参画に向けた12項目の支援プログラムについて紹介がありました。また、沢柳フェロー14名及び平成29年度女性教員採用促進事業・採用教員7名よりご挨拶をいただきました。最後に、永次史副センター長（多元物質科学研究所教授）より閉会のご挨拶を頂きました。和やかな雰囲気の中、総長と女性研究者との意見交換も行われました。



#### 参加者の声：

- 保育園見学に参加させていただきました。初めての保育園でしたので、周りの参加者の方と色々相談しながら見学できたことがとても良かったです。
- 大野先生のお話を近距離で聞けて、また久しぶりに会う先生や友人がいて、この場を借りて挨拶できて、よかったです。ご開催と準備ありがとうございます。
- 統計上では数字で増えているのは理解していましたが、実際に集まると、女性教員は本当に増えたな、という実感が持てました。スピーチも面白かったし、お話ししやすい方が多く、今後コンタクトを取ってみたい方が見つかり嬉しかったです。





## 第2回女性リーダー研修プログラム マネジメントセミナー キャリアブランディングとしてのファッション—仕事で成功するための服とは?—

### 実施内容

日時：平成31年1月22日（火）16：00～17:15（懇親会17:30～19:30）

会場：東北大学片平キャンパス 片平北門会館 エスパス

対象：本学の教職員・学生（主に女性を対象とするが、男女問わず参加可能）

参加人数：68名

概要：東北大学OGでもある山際 恵美子氏（ファッション・ディレクター、一般社団法人ウーマンメディア協会理事）をお迎えし、「仕事で成功するための服とは?」「身の丈に合っている服を選ぶためのルール」「仕事が出来そうに見える服の秘密」「似合うバランスの見つけ方」「コーディネートは〇〇から!」をテーマに、キャリアを磨く上のツールとしてファッションをいかに活用していけばよいのか、その基本とノウハウを学び、女性研究者の意欲向上と活性化を図りました。

### 参加者の声：

- ・大変面白く有意義な時間でした。今後のファッションを選択していく上で、軸ができたように思います。ファッションを味方につけて、自信をもってキャリアを積み上げていきたいと思いました。
- ・ファッションは3つのポイントを押さえれば、綺麗に見えるということがわかり、服の数等ではなく、大事なことは自分が着て心地良いということを理解した。
- ・とても面白かった。大学で教える側に立つ人向けの内容かと思っていたが、基礎となることは学部生のファッションでも使えるような内容も多く、勉強になった。しかし、今回は時間も短かったため、物足りない感じがした。
- ・山際さんのお話はメリハリがあり、時間があっという間でした。洋服選びに迷い始めた年代なので、今すぐ実践できることが多く、大変参考になりました。主催者のみなさま、貴重な機会をありがとうございました。
- ・この度のセミナーですが、大変興味深く有意義な1時間でした。講師の先生のお話の仕方や声がステキで、洗練された内容の1時間でした。今後の人生に役立つファッションのスキルを向上させたいと思うので、本も購入したいと思います。ありがとうございました。



## 【平成30年度「東北大学女性教員採用促進事業」の実施】

### 概要

昨年度確立した「東北大学女性教員採用促進事業」について、本年度も実施いたしました。

本年次報告書の2ページに示す通り「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」では、平成33年度までに女性教員比率を19%までに引き上げるもののほか、新規採用教員に占める女性比率30%、女性上位職教員の積極的採用などにより教授・准教授の女性比率10%をそれぞれ目指すという数値目標が掲げられています。これを踏まえて「東北大学女性教員採用促進事業」では目標達成のために、(1-1)部局と全学の連携による女性教員採用促進策「部局公募型」、(1-2)部局と全学の連携による女性教員採用促進策「国際公募型」、(2)ポストアップによる女性研究者の上位職移行策、(3)各部局の特性を生かした努力に対する促進策、の4つの事業を実施しました。これに伴って第5回管理職セミナー（平成31年3月18日開催）では、(3)各部局の特性を生かした努力に対する促進策の採択部局の部局長による事業報告のプレゼンテーションと採択教員の紹介が実施されました。

### 事業の趣旨・目的

「東北大学女性教員採用促進事業」は、優秀な女性研究者が長期に渡り安定かつ自立して研究を実施できる環境を整えることで、女性に特有のライフイベントも乗り越えて、多様な能力と発想を生かし、優れた研究成果の創出に繋げることを期待するものです。また上位職への登用などにより、優秀な女性教員の流出を防ぐ目的もあります。同時に各部局の特性を生かした努力に対して、活動を推進する上で不可欠な経費の一部を本学全体の財源から支援することも本事業のねらいの一つです。本事業に採用された女性教員には、本学の男女共同参画推進事業として、研究力強化や両立支援等のための各種支援を合わせて行うことで、世界トッパーリーダーとなるような広い学問領域を見渡せる女性リーダーの育成を目指しています。

## 公募要領の概略

プログラム名	募集内容	支援内容	対象	件数	締切
(1-1)部局公募型	女性教員（准教授、講師、又は助教）の新規採用を希望する部局を募集（採択された部局は、女性教員の公募を実施）	当該女性教員の人件費を、最大3年間で支援	全部局	4件程度	6月15日
(1-2)国際公募型					
受入部局の募集	幅広い分野が合同で行う国際公募により、女性教員（准教授、講師、又は助教）の新規採用を希望する部局を募集	応募した全ての部局の合同で、女性教員の国際公募を実施	全部局		6月15日
↓					
女性教員の公募	公募する教員ポストと受入部局は、7月下旬前に男女共同参画推進センターHP上で公開の予定（ただし申請にあたり公募する教員ポストの受入部局に所属するメンター教員を指定）	採用された女性教員のメンター教員の所属する受入部局に対して、当該女性教員の人件費を、最大3年間で支援	博士の学位を有する女性研究者	4名程度（准教授、講師、又は助教）	9月中旬（予定）
(2)ポストアップによる女性上位職移行策	上位職の実力が認められる女性教員の在籍する学内部局を募集	上位職と現職の人件費の差額を支、最大5年間で支援	全部局	6件程度（上位職として、准教授4名、教授2名程度）	8月17日
(3)各部局の特性を生かした努力に対する促進策	教員（助教以上）、上位職、及び役員・役職者における女性比率の上昇を実現し、ダイバーシティ研究環境の実現に向けた促進努力を行う部局独自の取組の提案を募集	1部局あたり、年間2000万円程度を支援	全部局	1~2件程度	6月15日

## 採択結果について

平成30年度「東北大学女性教員採用促進事業」には、以下の部局が採択されました

### (1-1) 部局と全学の連携による女性教員採用促進策「部局公募型」

※申請6件のうち3件採択

文学研究科、経済学研究科、生命科学研究科

### (1-2) 部局と全学の連携による女性教員採用促進策「国際公募型」

※申請2件のうち2件採択

電気通信研究所

### (2) ポストアップによる女性研究者の上位職移行策

※申請2件のうち2件採択（再公募含む）

医学系研究科、多元物質科学研究所

### (3) 各部局の特性を生かした努力に対する促進策

※申請2件のうち1件採択

多元物質科学研究所

# 「社の都女性研究者エンパワーメント推進事業（H28～H33）」 管理職セミナー

## 第4回

### 実施内容

日時：平成30年10月4日（木）16:00～17:15

会場：東北大学片平キャンパス 知の館3階講義室

対象：本学教職員および学生（特に下記の方々の積極的な参加・聴講を期待するものです）

- ・ 部局長・事務長等、各部局において指導的立場にある方
- ・ 各部局にて共同参画に携わる男女共同参画委員や総務・教務等の実務担当者
- ・ 本学における共同参画に関する活動に興味のある方

参加人数：39名

概要：本学の部局長・事務長等、各部局において指導的立場にある教職員や実務担当者、共同参画に関する活動に興味のある本学教職員を主な対象とし、日本IBM株式会社人事・ダイバーシティ企画担当部長である梅田恵氏を講師としてお招きし「特別講演Why Diversity—個人と組織を強くするための戦略」と題してご講演いただきました。世界に先駆けてダイバーシティ&インクルージョンを推進している日本IBMの取り組みを学びました。

参加者の声：

- ・ IBMの様々な取り組みを理解できた。障がい者の雇用機会創出の取り組みとして、大学生に新卒向け6ヵ月以上のインターンシップを本学も取り入れる事を検討する必要があると思った。
- ・ ダイバーシティについての意識としては、男女均等、障害者は考えていたが、LGBTについては考えたことがなかった。今後LGBTについても勉強したい。
- ・ 日本IBMのダイバーシティ推進に関する様々な取り組みについて説明いただきとても参考になりました。意識の変革だけでなく、仕組みをうまく設計していることに感銘を受けました。



## 第5回

### 実施内容

日時：平成31年3月18日（月）14:30～15:30

会場：東北大学片平キャンパス 片平さくらホール 2階会議室

対象：本学の管理職（部局長、事務長ほか、各部局において指導的立場にある方）

参加人数：67名

概要：本学の部局長、事務長ほか、各部局において指導的立場にある教職員を対象に、東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」受賞者の表彰式、続いて女性教員採用促進事業の説明、採択部局の部局長による報告と採択教員の紹介を行いました。

プログラム：

司会 芳賀 満（総長特別補佐、男女共同参画推進センター副センター長）

開会挨拶 大野 英男 総長

- ・第2回「紫千代萩賞」受賞者表彰式
- ・本学共同参画の現状と取組状況について

田中 真美（総長特別補佐、男女共同参画推進センター副センター長）

- ・女性教員採用促進事業「(3)各部局の特性を生かした努力に対する支援策」平成30年度採択部局の部局長による取組報告
- ・平成30年度女性教員採用促進事業採択教員の部局長による紹介

閉会挨拶 大隅 典子（副学長、男女共同参画推進センター長）

文部科学省 科学技術人材育成推進事業  
ダイバーシティ経営環境実現イニシアティブ（特色型）  
「我が国女性研究をエンパワーメント推進事業（H29ホト33）」

### 第5回 管理職セミナー/介護セミナー

平成30年度、文部科学省科学研究費補助金推進補助事業「ダイバーシティ経営環境実現イニシアティブ（特色型）」に本学の「社会型女性研究者エンパワーメント推進事業」が採択されました。本事業は、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究業績の創出につなげるため、各機関・地域が得意と見込まれた、特色研究の推進策に特化した機関としての役割、自己評価を促進、これを評価することによる優遇とし、女性研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の就業の向上のための取組及び女性研究者の積極的な活躍の促進に資することを目的として実施するものです。

第1回以降は女性研究者セミナーでは、東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」受賞者の表彰式、続いて女性教員採用促進事業の説明、採択部局の部局長による報告と取組報告の紹介、また第2回は介護セミナーでは「介護上り層の自立」をテーマとした介護の現状について報告いたします。

**日 時** 3月18日（月） 14:30～17:10  
片平さくらホール2階会議室（片平キャンパス）

**プログラム** 14:30～15:30 第1部 管理職セミナー  
対象者：本学の管理職（部局長、事務長ほか、各部局において指導的立場にある方）  
【司会】芳賀 満 総長特別補佐、男女共同参画推進センター副センター長

開会挨拶  
大野 英男 総長

第2回「紫千代萩賞」受賞者表彰式  
本学共同参画の現状と取組状況について  
田中 真美 総長特別補佐、男女共同参画推進センター副センター長

女性教員採用促進事業「(3)各部局の特性を生かした努力に対する支援策」  
平成30年度採択部局の部局長による取組報告  
平成30年度女性教員採用促進事業採択教員の部局長による紹介

閉会挨拶  
大隅 典子 副学長、男女共同参画推進センター長

15:30～15:40 休憩

15:40～17:10 第2部 介護セミナー  
対象者：教職員、学生および一般 希望者優先にご参加ください。

取組企画部 企画課  
TEL: 022-217-4481 | Mail: camp@iggo.tohoku.ac.jp  
URL: <http://www.tohoku.ac.jp/iggo>



# 【平成30年度介護セミナー】

## 実施内容

日時：平成31年3月18日（月）15:40～17:10

会場：東北大学片平キャンパス 片平さくらホール 2階会議室

対象：学内教職員・学生および一般

参加人数：約50名

概要：学内外より3名の講師をお迎えして「仕事と介護の両立」をテーマに、各々の視点からご講演いただきました。

※本セミナーは第5回管理職セミナー（対象者は本学の管理職等）の第2部として同日に開催されました。

## プログラム：

司会 田中 真美（総長特別補佐、男女共同参画推進センター副センター長）

開会挨拶 大隅 典子（副学長、男女共同参画推進センター長）

講演1 「アンケート結果から見た本学教職員の介護状況」

吉田 浩氏（高齢経済社会研究センター長、経済学研究科教授）

講演2 「介護保険制度の概要について」

柿沼 真吾氏（仙台市健康福祉局保険高齢部介護保険課介護保険係長）

講演3 「『夫の介護』が教えてくれたこと」

川村 隆枝氏（国立病院機構仙台医療センター麻酔科部長）

質疑応答・総合討論

閉会挨拶 芳賀 満（総長特別補佐、男女共同参画推進センター副センター長）



**介護セミナー**

本セミナーでは、学内外より3名の講師をお迎えして「仕事と介護の両立」をテーマに、各々の視点からご講演いただきます。質疑応答・総合討論も予定しております。

15:40～ 開会挨拶  
大隅 典子

15:45～ 講演1 「アンケート結果から見た本学教職員の介護状況」  
吉田 浩

16:05～ 講演2 「介護保険制度の概要について」  
柿沼 真吾

16:25～ 講演3 「『夫の介護』が教えてくれたこと」  
川村 隆枝

16:50～ 質疑応答・総合討論

17:15～ 閉会挨拶  
芳賀 満

当日の参加費は無料ですが、会場は限られています。お申し込みは、お早めにご参加ください。

お申し込み先：男女共同参画推進センター  
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1  
TEL: 022-251-7111 (内線2517) FAX: 022-251-7112

お申し込み先：男女共同参画推進センター  
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1  
TEL: 022-251-7111 (内線2517) FAX: 022-251-7112

# 第15回東北大学男女共同参画シンポジウム 「DualCareerCouple」

## 実施内容

日時：平成30年12月8日（土）13：00～17:00（茶話会17:00～18:00）

会場：東北大学青葉山キャンパス 翠生ホール（青葉山コモンズ2階）

対象：学内教職員・学生及び一般

参加人数：84名（関係者含む）

総合司会 淡路 智（男女共同参画委員会委員 広報・シンポジウムWG、金属材料研究所教授）

プログラム：

13:00 開会挨拶

大野 英男（総長）

13:10 来賓挨拶

室伏きみ子氏（お茶の水女子大学学長）

13:10-14:05 第1部

第5回澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞（澤柳記念賞）受賞式及び講演会

A賞：澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞

九州大学研究戦略委員会代表 上瀧恵里子氏

（国立大学法人九州大学 男女共同参画推進室 教授）

B賞：澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画奨励賞

大阪府立大学 理系女子大学院生チームIRIS代表

乙山 美紗恵氏（工学研究科 博士後期課程2年）

永田 佑佳氏（工学研究科 博士前期課程2年）

中嶋 優里氏（生命環境科学研究科 博士前期課程2年）

黒田 麻友氏（理学系研究科 博士前期課程2年）

東北大学における男女共同参画の取り組みについて

田中 真美（総長特別補佐（共同参画担当）、男女共同参画委員会副委員長、男女共同参画推進センター副センター長、医工学研究科/工学研究科教授）

14:05-14:20 休憩

14:20-15:10 第2部 特別講演

テーマ：民間企業の研究者から東京都議会議員へ～自分なりの社会貢献を模索して～  
福島りえこ氏（東京都議会議員）

<座長>永次 史（男女共同参画委員会副委員長、男女共同参画推進センター副センター長、多元物質科学研究所教授）

15:10-15:25 休憩

15:25-16:55 第3部

パネルディスカッション DualCareerCouple 今と未来の「共働き」を考える

<パネリスト>

福島りえこ氏（東京都議会議員）

横田 智史氏（特定非営利活動法人ファザーリングジャパン東北代表理事）

伊賀 由佳氏（東北大学流体科学研究所教授）

森 真依子さん（東北大学大学院理学研究科修士2年）

伊佐治祐太さん（東北大学経済学部4年）

<コーディネーター>山内 正憲

（男女共同参画委員会委員、広報・シンポジウムWG座長、医学系研究科教授）

16:50 閉会挨拶

大隅 典子（副学長（広報・共同参画担当）、男女共同参画委員会委員長）

17:00 茶話会

概要：男女共同参画委員会主催第15回東北大学男女共同参画シンポジウム『DualCareerCouple今と未来の「共働き」を考える』が開催されました。

第1部では、室伏きみ子氏（お茶の水女子大学学長）から来賓のご挨拶をいただいた後、第5回澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞授賞式およびA賞（本省）受賞九州大学研究戦略委員会代表上瀧恵里子氏（九州大学男女共同参画推進室教授）、B賞（奨励賞）受賞大阪府立大学理系女子大学院生チームIRIS代表乙山美紗恵氏、永田 佑佳氏、中嶋 優里氏、黒田 麻友氏による受賞講演を行いました。第2部では、「民間企業の研究者から東京都議会議員へ～自分なりの社会貢献を模索して～」と題し、福島りえこ氏（東京都議会議員）による特別講演を行いました。第3部では、福島りえこ氏（東京都議会議員）、横田 智史氏（特定非営利活動法人ファザーリングジャパン東北代表理事）、伊賀由佳氏（流体科学研究所教授）、森 真依子さん（理学研究科修士2年）、伊佐治祐太さん（経済学部4年）による講演およびパネルディスカッション『DualCareerCouple今と未来の「共働き」を考える』を行い、若い世代の結婚・仕事・家族への夢や不安を話してもらい、現状の壁を打ち破る発想や今の大人がなすべきことを論議しました。最後に活発な質疑応答も行われ、参加者それぞれの立場で男女共同参画の推進について考える契機になりました。





## 【「社の都女性研究者エンパワーメント推進事業」 実施に係る女性研究者支援制度】

### <ダイバーシティ研究環境実現のための部局等による取組支援プログラム>

各部局ではダイバーシティ研究環境実現に向けて、その実状に沿った取組がされている。本支援プログラムは、部局が、当該部局の構成員（教職員・学生等）を対象に、ダイバーシティ研究環境整備および男女共同参画に関する意識の醸成を目的として開催するセミナー等の取組について財政的に支援する。

### 平成30年度募集実施プログラム

項目	プログラム名	内容	対象者	平成30年度 申請数	平成30年度 採択数
上位職への 積極的登用	ダイバーシティ 研究環境実現の ための部局等 による取組支援 プログラム	部局がファカルティ・デイ ベロップメント、セミ ナー、ワークショップ等 の取組支援を実施するに あたって、必要となる講 師旅費、諸謝金等を15万 円程度支援する	全部局	2件	1件

### 利用部局からの声

- ・今回、本制度を利用することで講演会を開催できたことは、大変良かったと思う。ただ年度末であったこともあり、参加者が少なかったのが残念であった。

今後もぜひ本制度でセミナー開催、さらには女性教員の増加などへの支援をお願いしたいと考えている。

## 多元物質科学研究所第7回男女共同参画推進セミナー サイエンスの最先端で活躍する若手女性研究者講演会

### 実施内容

日時：平成31年1月10日（木）13:30～16:30

会場：東北大学片平キャンパス 多元物質科学研究所 南総合研究棟Ⅱ大会議室

対象：本学の教職員・大学院生

参加人数：15名

概要：今回、ダイバーシティ研究実現のための部局等による取組支援プログラムによりご支援いただくことにより、東京農工大及び神奈川大学より2人の講師の先生をお呼びし、講演会を開くことができました。今回、講演頂いた若手女性教員の先生方は非常にレベルの高い研究を展開している先生方であり、聴講された先生方から非常に刺激を受けたとの感想をお聞きしました。さらに、茶話会では博士課程進学に対して悩んでいる女子学生に対し、みずからの経験をもとに、ご助言を頂きました。また女子学生から研究に関する悩みなどの相談もあり、かなりざっくばらんな議論ができました。このディスカッションを通して、将来、女性研究者として活躍していくための指針になったのではないかと考えております。



#### 第7回多元研男女共同参画推進セミナー

文部科学省 科学技術人財育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）

サイエンスの最先端で活躍する若手女性研究者講演会

主催 多元研男女共同参画委員会  
日時 平成31年1月10日 13時30分より  
場所 南総合研究棟Ⅱ（材料・物性総合研究棟Ⅱ）  
大会議室

#### プログラム

- 13:30-13:40 趣旨説明 永次 史（東北大・多元研）
- 13:40-14:20 久保若菜（東京農工大工学部電気電子工学科 准教授）  
「プラスモン熱を介する光電変換」
- 14:20-15:00 倉倉いずみ（神奈川大学工学部 准教授）  
「5フェムト秒パルスレーザーを用いる化学反応遷移状態の可視化」
- 15:00-16:30 パネルディスカッション&茶話会

連絡先：永次 史（東北大学・多元物質科学研究所）  
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1  
(TEL&FAX) 022-217-5633/e-mail nagataga@tagen.kohoku.ac.jp



## 【 セミナー 研究者ってなに？「オープンキャンパス」編 】

## 実施内容

日時：平成30年7月31日（火）・8月1日（水）12:00～13:30

会場：東北大学青葉山キャンパス 理学研究科合同A棟 2階第2・3共通講義室（204号室、205号室）

対象：中学生・高校生、学部学生（男女問わず）

参加人数：2日間合計でおよそ200名（付き添い含まず）

プログラム：

7月31日（火）

12:00～12:45 女性研究者及び東北大学サイエンス・エンジェルによる講演

- ・「おなかと心を科学する～多学部連携で疾患に挑む～」田中 由佳里（医学系研究科助教）
- ・「多様な性を示す海の動物たち—雌雄同体や性転換する貝の繁殖—」  
関澤 彩真（農学研究科特任助教）
- ・「物理と生物を選択したらこうなった～理学部物理学科から医工学研究科へ～」  
高井 萌子（医工学研究科博士課程前期2年）

12:45～13:30 SAとの進路に関するグループトーク

8月1日（水）

12:00～12:45 女性研究者及び東北大学サイエンス・エンジェルによる講演

- ・「磁気の機能は無限大」梅津 理恵（金属材料研究所准教授）
- ・「自然災害と地理学」今野 明咲香（災害科学国際研究所助教）
- ・「薬の有効成分をつくるとは？～有機合成化学の魅力～」  
若原 裕子（薬学研究科博士課程前期2年）

12:45～13:30 SAとの進路に関するグループトーク

概要：オープンキャンパスにて開催された本セミナーでは、理系学部への進学をめざす全国の中学生・高校生、学部学生に対して、東北大学の若手女性研究者と東北大学サイエンス・エンジェル（SA）が、講演を通じて理系分野での研究の面白さ、魅力を伝えました。またグループトークでは、医学・歯学・薬学や理学、工学など自然科学系の各部局に所属する東北大学サイエンス・エンジェルが、理系学部への進学に興味を持つ女子中高生の疑問・悩み・相談にお答えしました。

参加したSAの振り返り：

- 普段は研究のことばかり考えているので、彼らの持つ新鮮な視点や、考えていることを見聞きし、こっちも良い刺激となった。自分自身のことや研究についてわかりやすく話すことが難しいこと、どのように話すに興味を持ってもらえるかなどを身をもって体験でき、良かった。周りのSAの高校生への対応や学部・研究の説明の仕方を聞き、私自身どのように話せばいいのかなども学べたように思う。
- 中高生に自分の進路選択の話をする事で、自分が今までどんなことを考えてどんな選択をしてきたのか思い出すことができました。また、普段あまり他の研究科の方と交流する機会がないので、SAとお話して、自分の大学で他にどのような研究が行われているかを知るいい機会になりました。

参加者の声：

- 身近な話題で関心があった。臨床と研究をやっていたら、そういう道もあるのかと新たな視点をもらった。
- 現在進歩しているITを用いたり、アプリを用いることは、とても興味深かった。自分もダウンロードしてみようと思う。
- 雌雄胴体については、カタツムリなどしか聞いた事がなかったけれど、ウミウシの話で詳しく知れてよかった。ウミウシの生殖法が意外すぎて驚いた。

研究者つてなに？  
「オープンキャンパス」編

7月31日 12:00 - 13:30  
12:00-13:30  
女性研究者及び東北大学サイエンス・エンジェルによる講演  
● 脳科学センター 脳科学部 脳神経科学科 脳神経科学科 脳神経科学科  
● 脳神経科学部 脳神経科学科 脳神経科学科 脳神経科学科  
● 脳神経科学部 脳神経科学科 脳神経科学科 脳神経科学科  
● 脳神経科学部 脳神経科学科 脳神経科学科 脳神経科学科

8月1日 12:00 - 13:30  
12:00-13:30  
女性研究者及び東北大学サイエンス・エンジェルによる講演  
● 脳科学センター 脳科学部 脳神経科学科 脳神経科学科 脳神経科学科  
● 脳神経科学部 脳神経科学科 脳神経科学科 脳神経科学科  
● 脳神経科学部 脳神経科学科 脳神経科学科 脳神経科学科  
● 脳神経科学部 脳神経科学科 脳神経科学科 脳神経科学科

東北大学宮城県仙台市青葉区  
宮城・第21号館5階  
【2024年夏、2025年夏】

対象者：高校生、大学生  
● 高校生・大学生は無料  
● 高校生・大学生は無料  
● 高校生・大学生は無料  
● 高校生・大学生は無料

入場無料・入退場自由  
飲食可能です。各自ご自由に持参下さい。

東北大学宮城県仙台市青葉区  
宮城・第21号館5階  
【2024年夏、2025年夏】

東北大学宮城県仙台市青葉区  
宮城・第21号館5階  
【2024年夏、2025年夏】



# セミナー 研究者ってなに？「博士課程進学」編

※多元研との共催

## 実施内容

日時：平成30年12月17日（月）14:00～15:30

会場：東北大学片平キャンパス 片平さくらホール

対象：本学学部生・大学院生、研究職に興味のある中高生、保護者等

参加人数：50名

概要：本セミナーでは博士課程在学中の大学院生と、博士号を取得して大学や企業等、それぞれのフィールドで研究職として活躍している女性研究者をパネリストとしてお迎えし、博士課程進学の魅力や実際、博士課程修了後のキャリアパスをパネルディスカッション形式で紹介していただきました。活発な質疑応答も行われました。

参加者の声：

- ・一つの質問に対して様々な回答があり、博士課程進学を考えるにあたってとても参考になった。
- ・正解はないし、選択肢もたくさんあるという力強い言葉が聴けて良かったです。
- ・普段あまり聞くことができない博士課程の実際を聞くことができたので、参考になった。
- ・とても有意義なセミナーでした。ありがとうございました。



## まとめ

杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業は、本学の女性教員の採用を促進するとともに、ダイバーシティ研究環境の充実を図るため、平成33年度の女性教員在籍率19%の達成を目指して、平成28年度より文部科学省科学技術人材育成費補助事業の採択を受けて事業実施してきました。

その結果、平成30年12月1日現在の、助教以上の女性教員在籍率は12.4%、助手以上の女性教員在籍率は14.2%となっています。

平成30年度は特に、「保育環境の充実」を図るとともに、「女性研究者採用促進事業」の実施、「セミナー・シンポジウム」の実施、「紫千代萩賞」による優秀な女性研究者の顕彰、「サイエンス・エンジェル」を通じた次世代の女性研究者育成などを積極的に実施してきました。

平成31年度以降も、こうした活動のリニューアルを図りながら継続するとともに、さらに女性教員在籍率の向上に向けて取り組みを進めて行くこととしています。



## 参考資料

# 1.平成31年度 TUMUG支援事業・杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業募集実施プログラム一覧

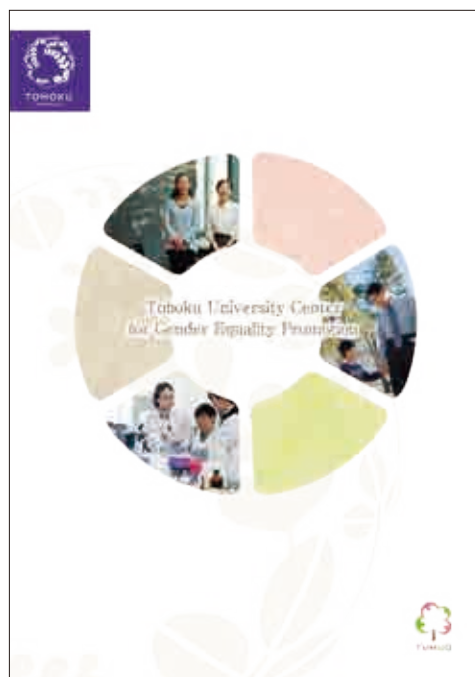
「TUMUG支援事業（男女共同参画・女性研究者支援事業）」として6種のプログラムを実施します。

	項目	プログラム名	内容	対象者
1	両立支援	研究支援要員	研究支援要員雇用のために必要な人件費の補助	出産・育児・介護等を行う教員・技術職員（男女）
	女性リーダー育成			国の審議会委員等の要職に就く女性教員・技術職員
2	女性リーダー育成	ベビーシッター利用料等補助	研究・教育と育児の両立に必要なベビーシッター利用料等の補助	育児を行う教員、技術職員、ポスドク、博士学生等（男女）
3	女性リーダー育成	スタートアップ研究費	研究・教育と育児の両立に必要なベビーシッター利用料等の補助	新規採用の女性教員（助教以上）
4	女性リーダー育成	ネクストステップ研究費	新規の研究課題の遂行や、研究成果の公開に必要な研究費の支援	女性教員（准教授、講師、助教、助手）
5	次世代育成	東北大学サイエンス・エンジェル	出張セミナー、オープンキャンパス、科学イベント等の企画・実施	自然科学系部局に所属する大学院女子学生
6	次世代育成	仙台Iゾンタクラブ 東北大学大学院女子学生のための国際学会発表渡航支援事業	海外で開催される会議・シンポジウム等の旅費支援	大学院女子学生

※プログラム内容を変更する場合がございます。詳細は、追って公開される要項をご確認下さい。

## 2. 東北大学男女共同参画推進センター リーフレット（日本語・英語）

東北大学の男女共同参画の現状、目標、取組、当センターの活動について掲載しています。新入学生と保護者様、ブース展示、小・中学生及び高校生向け出張セミナー・科学イベントにて配布しています。



## 3. 東北大学サイエンス・エンジェル活動報告2018



東北大学サイエンス・エンジェルの活動内容詳細や活動体験者からのメッセージを掲載しています。本学在学学生、小・中学生及び高校生向け出張セミナー・科学イベントにて配布しています。



# 4. 東北大学男女共同参画推進センター [TUMUG] ニュースレター vol.12~14

最新の支援制度募集やイベント開催情報、活動報告を掲載し、年3回発行しています。学内教職員、本学在学学生、小・中学生及び高校生向け出張セミナー・科学イベントにて配布しています。

東北大学男女共同参画推進センター[TUMUG]ニュースレター 平成30年10月号発行 (01)

## TUMUG VOL.12

TOPICS

- 01 男女共同参画推進センター新体制・就任挨拶  
全学教育科目「ジェンダーと人間社会」関係教員が平成29年度 東北大学総長教育賞受賞
- 02 平成30年度「女性教員採用促進事業」学内関係部署のお知らせ
- 03 平成30年度東北大学サイエンス・エンジェル(SA)の活動  
と女子学生を支援しよう
- 04 コロナ禍を乗り越える

男女共同参画推進センター新体制・就任挨拶

大隅 典子 田中 尚美 男野 謙

全学教育科目「ジェンダーと人間社会」関係教員が平成29年度 東北大学総長教育賞受賞

学内関係部署のお知らせ

女性教員採用促進事業

サイエンス・エンジェル(SA)の活動

女子学生を支援しよう

コロナ禍を乗り越える

東北大学男女共同参画推進センター[TUMUG]ニュースレター 平成30年11月号発行 (02)

## TUMUG VOL.13

TOPICS

- 01 活躍アロー ランチミーティング  
～大野英男総長が分科会研究委員へのメッセージ～  
～職員の働き方に関する共同参画の推進～
- 02 平成30年度 東北大学女性教員採用促進事業  
「学内関係部署」の活動
- 03 平成30年度 東北大学サイエンス・エンジェル(SA)の活動  
～Dual Career Couple 卒と家族の共働き～を支援する
- 04 コロナ禍を 乗り越える

活躍アロー ランチミーティング～大野英男総長から女性研究者へのメッセージ～

職員の働き方に関する共同参画の推進

女性教員採用促進事業

学内関係部署の活動

サイエンス・エンジェル(SA)の活動

Dual Career Couple 卒と家族の共働きを支援する

コロナ禍を 乗り越える

東北大学男女共同参画推進センター[TUMUG]ニュースレター 平成31年1月号発行 (03)

## TUMUG VOL.14

TOPICS

- 01 社会的性別研究者エンパワメント推進事業の進捗状況  
「(2)ホストアップによる女性上級職移行」採択依頼のお知らせ
- 02 平成30年度 東北大学優秀女性研究者賞「新千代賞」受賞者 決定
- 03 平成30年度 東北大学サイエンス・エンジェル(SA)の活動  
～第15回東北大学男女共同参画シンポジウム Dual Career Couple 卒と家族の共働きを支援する～
- 04 病院発祥型「卒とファミリー」支援制度、病院発祥型に

社会的性別研究者エンパワメント推進事業の進捗状況

平成30年度 第2回東北大学優秀女性研究者賞「新千代賞」受賞者 決定

平成30年度 東北大学サイエンス・エンジェル(SA)の活動

病院発祥型「卒とファミリー」支援制度、病院発祥型に

学内関係部署のお知らせ

女性教員採用促進事業

サイエンス・エンジェル(SA)の活動

Dual Career Couple 卒と家族の共働きを支援する

コロナ禍を 乗り越える

# 5. TUMUG Café (第8回～9回)

教職員および学生・大学院生が男女問わず子育てに関する情報や意見を気楽に共有できる場として、ランチタイムにTUMUGCaféを開催しています。

第8回 TUMUG CAFÉ

お昼ご飯を食べながら、研究と子育てでの両立について  
みんなで話してみませんか？

テーマ  
～熱がでてあわてないで～  
「発熱時のケアのポイント！」

協賛提供  
松田ひとみ 氏 (産科のナース/保育士)、石屋久仁子 氏 (産科のナース/看護師)

全学の教職員、学生が利用可能な産後授乳保育室「産のナース」が大学構内にあることでご存知でしょうか？ 産のナースでは産後授乳を、産後2週間以内、夜間の授乳指導で育児、育児できないお子さんの看護、保育を行っています。今回のTUMUG CAFÉでは産のナースと保育士の松田ひとみ 氏と看護師の石屋久仁子 氏とのお話です。各場を巡るこれらの情報にぜひぜひ子育ての発熱の時のケア、そのポイントについてお話しください。皆さまの疑問にお答えいたします。

日時  
10月26日 (金)  
12:00～13:30  
(途中入退場自由)

会場  
C19 文科系総合講義棟 (旧研キャンパス)  
105 ミーティングルーム2

対象  
東北大学に所属する教職員、大学院生、学生、関係者の方を歓迎します。

参加申込  
当日の参加も歓迎いたしますが、準備の都合上、下記アドレスの登録フォームからの事前申し込みにご協力ください。  
https://goo.gl/forms/LYw5Rv9Q35a15e2z  
※登録の受付は先着順です。(9時～) 当日は(9時)までにご登録ください。登録フォーム

お問い合わせ  
東北大学男女共同参画推進センター  
Tel : 022-217-6092 Mail : office@tumug.tohoku.ac.jp

第9回 TUMUG CAFÉ

お昼ご飯を食べながら、研究と子育てでの両立について  
みんなで話してみませんか？

テーマ  
「保育園を見学しよう！」  
～平成31年度入園に向けて～

青葉山みどり保育園を見学しながら、総務課保育園担当者が施設を紹介し、入園希望者への情報提供を行います。  
「保育園ってどんなところ？」「保育園の入園状況は？」「入園するにはどうしたらいい？」等々皆様のご質問にお答えします。是非ご参加ください！

日時  
12月19日 (水)  
12:00～13:30  
見学は12:00～12:20で行います。  
その後の情報提供は途中入退場自由。

会場  
青葉山みどり学生会館 (青葉山新キャンパス)  
3F 青葉山みどり保育園  
園内設備、3F 園児専用バスとバスに専用ランチ室を備えた保育室について情報提供を行います。

対象  
本学の教職員、学生 (男女問わず)

参加申込  
当日の参加も歓迎いたしますが、準備の都合上、下記の登録フォーム、またはQRコードからの事前申し込みにご協力ください。  
https://goo.gl/forms/SQpYSOHQGA1tAZ2  
※登録の受付は先着順です。(9時～) 当日は(9時)までにご登録ください。登録フォーム

お問い合わせ  
東北大学男女共同参画推進センター  
Tel : 022-217-6092 Mail : office@tumug.tohoku.ac.jp

## 6.平成29年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型） 杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業年次報告書



平成29年度杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業の概要、各種取組と成果について掲載しています。本学各部局、男女共同参画事業に採択を受け、女性研究者支援を推進している大学・外部機関に配布しています。

## 7.基金パンフレット



「東北大学における男女共同参画推進のための行動指針（2013～2023）」に基づく仕事・学業と生活との両立支援、女性リーダーや次世代女性研究者等の育成をはじめとする各種施策を着実に推進するとともに、「門戸開放」の理念に基づき、国籍、人種、性別、年齢、価値観、障害、性自認・性的指向等にとらわれない新たな共同参画体制へと発展させ、構成員の多彩な能力を最大限発揮できる環境を整備するために、「男女共同参画推進基金」を活用していきます。



## VIII アンケート結果

### 研究環境アンケート結果報告

#### 1. 概要

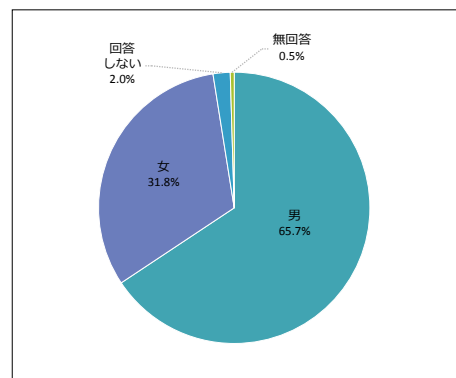
本調査は研究に従事している東北大学の教職員を対象とし、平成30年12月14日から平成31年1月15日に、Web上アンケートとして実施された（目的、方法および対象などについては、本書13ページを参照）。全対象者4473名の内、638名より回答が得られ、全体の回答率は14.3%であった。以下、各項目別に調査結果の概要を示す。

※本アンケート調査（平成30年度第2回）ならびに前回アンケート調査（平成28年度第1回）結果の詳細データ（自由記述を含む）は、東北大学男女共同参画推進センター（TUMUG）WEBページ（URL:<http://www.tumug.tohoku.ac.jp/>）内の、「研究環境に関するアンケート」実施報告の項を参照いただきたい。

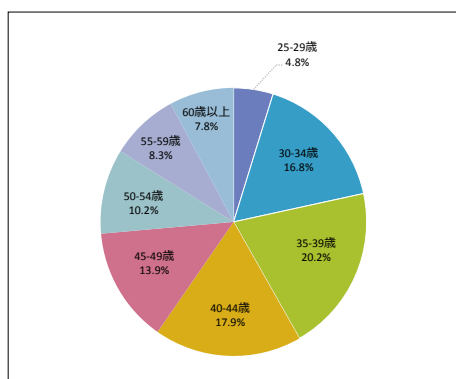
#### 2. 回答者プロフィール

回答者の性別は、「男性」419名（65.7%）、「女性」203名（31.8%）であった（Q1）。最も多い年代は「35歳～39歳」20.2%（Q2）、最も多い職位は「助教（特任を含む）」38.9%であった（Q3）。現在の雇用形態は、「常勤（任期なし）」46.3%、「常勤（任期あり）」47.7%、「非常勤」5.4%であり、常勤職員が大半を占め、常勤職員の中でも「任期あり」が「任期なし」をやや上回っていた（Q4）。最も多い最終学歴は「博士修了（博士課程・博士後期課程）」で85.3%であり、次いで「修士修了（修士課程・博士前期課程・専門職学位課程）」で8.6%、「学部卒業」5.1%であった（Q5）。最も多い研究分野は「理学・工学系」で48.7%。次に多い研究分野は「医歯薬学・保健系」で21.2%であり、「人文・社会科学系」は15.4%、「農学・生命科学系」は14.3%であった（Q6）。

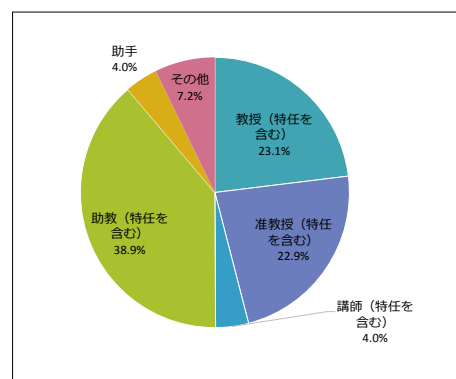
回答者の中で、最も多い



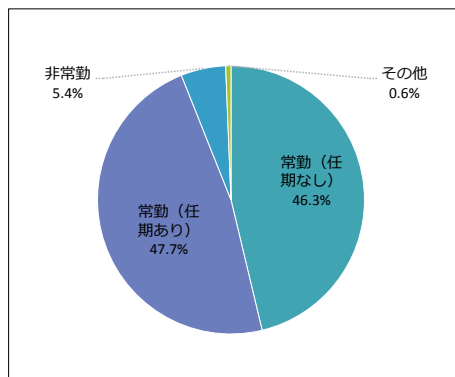
Q1 性別



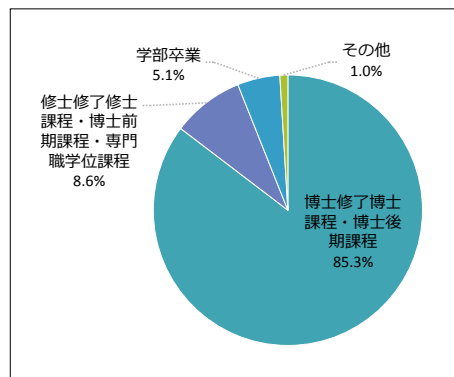
Q2 年代



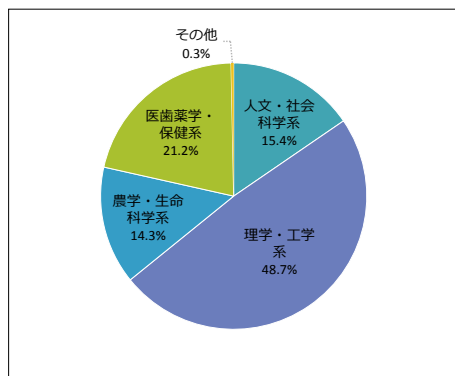
Q3 順位



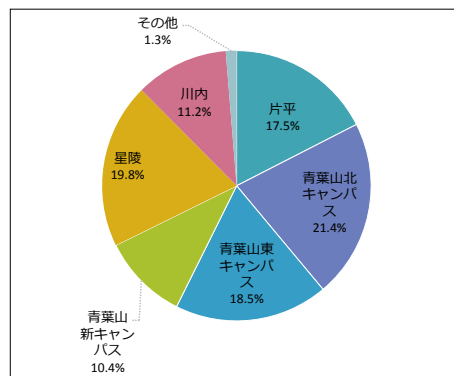
Q4 雇用形態および任期



Q5 最終学歴



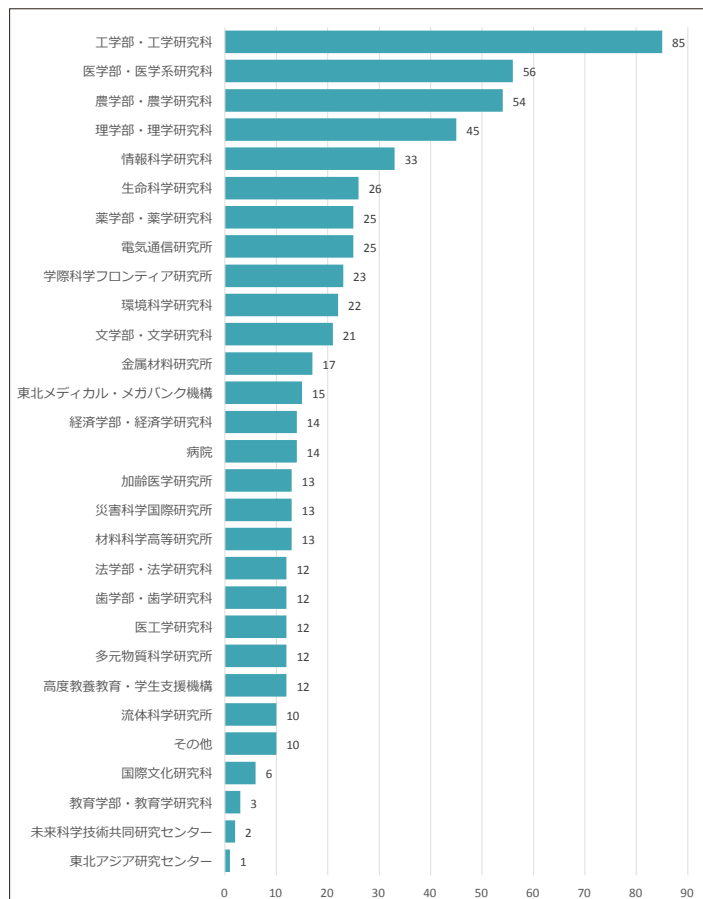
Q6 研究分野



Q7 勤務キャンパス

勤務キャンパス (Q7) は「青葉山北キャンパス」132名 (21.4%)、次に「星陵」122名 (19.8%) であった。その他は、「青葉山東キャンパス」114名 (18.5%)、「片平」108名 (17.5%)、「川内」69名 (11.2%)、「青葉山新キャンパス」64名 (10.4%) の順であった。

最も回答数の多い所属部局 (Q8) は「工学部・工学研究科」で85名 (全回答数に占める割合は14.0%) であった。その他は回答数の多い部局から、「医学部・医学系研究科」56名 (同9.2%)、「農学部・農学研究科」54名 (8.9%)、「理学部・理学研究科」45名 (7.4%)、「情報科学研究科」33名 (5.4%) 等であった。

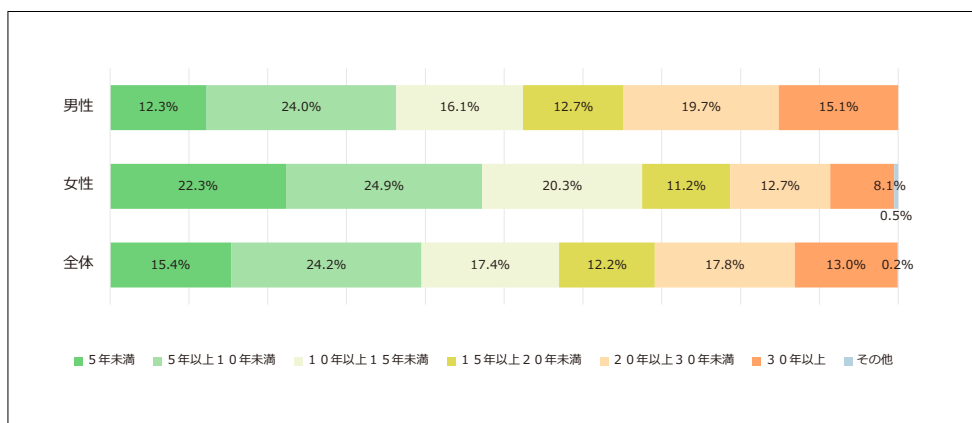


Q8 所属部局

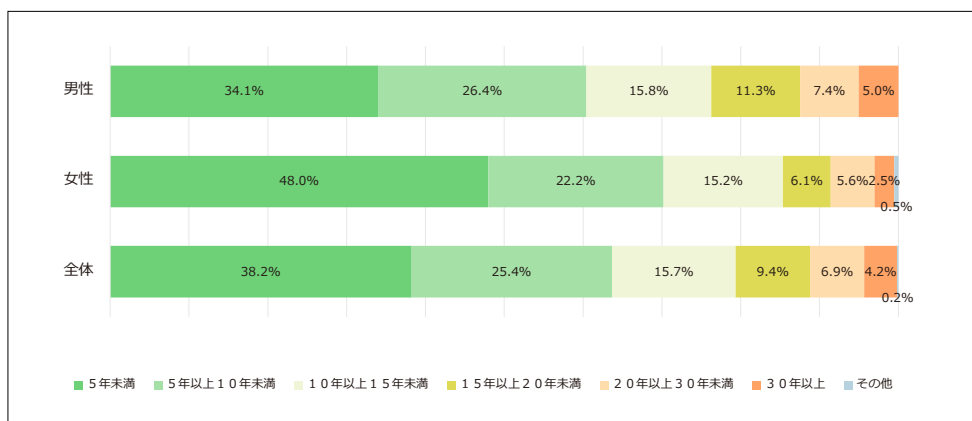
### 3. 研究キャリア

研究者としてのキャリアの長さ（Q9）は、全体では「5年以上10年未満」が24.2%（151名）と最も多く、キャリアが短い回答者が多い。男女別では、男性よりも女性は、キャリアが短い回答者が多い。

東北大学での研究キャリアの長さに関して（Q10）、男性よりも女性は、キャリアが短い回答者の割合が多い。



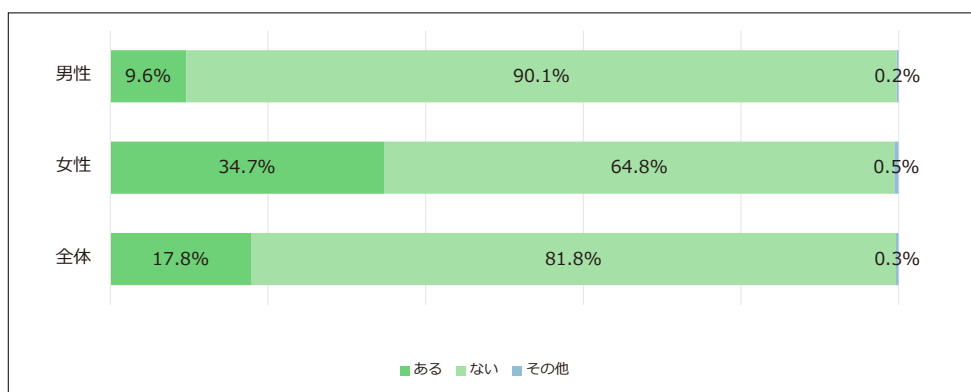
Q9 研究キャリアの長さ



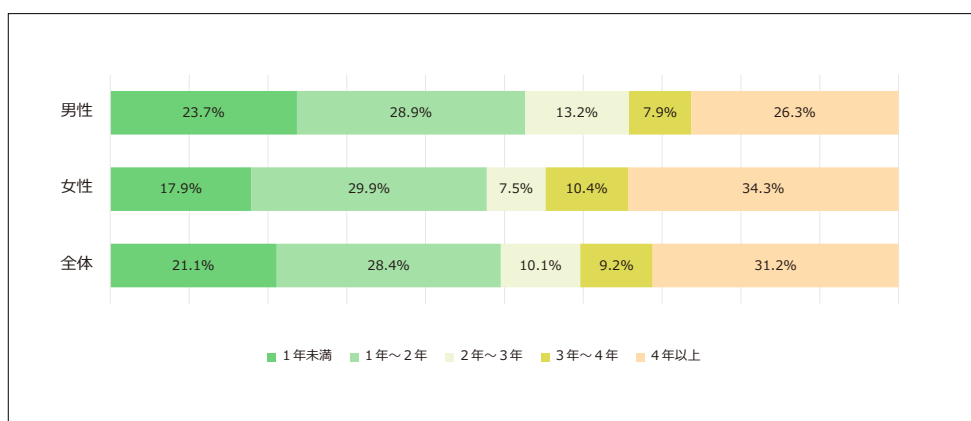
Q10 東北大学での研究キャリアの長さ

研究キャリアを離れた経験（Q11）については、「ある」とした回答者が全体で17.8%（111名）あった。男女別では、男性が9.6%（40名）にとどまったのに対し、女性は男性の約3.5倍（34.7%、67名）も多い割合であった。研究キャリアを離れた期間（Q11-1）についても、女性は男性よりも長い傾向が見られた。

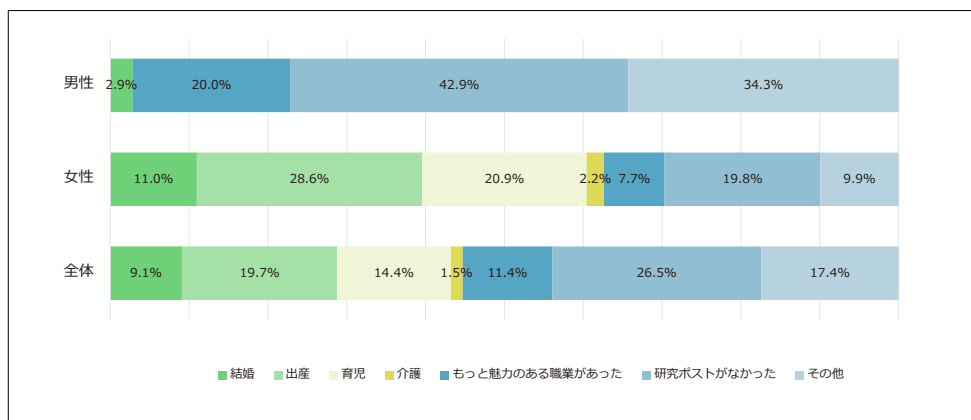
研究キャリアを離れた理由（Q11-2）として、女性は「出産（28.6%）」「育児（20.9%）」「結婚（11.0%）」「介護（2.2%）」であり、これらのライフイベントが合わせて約6割を占めるのに対し、男性は「結婚（2.9%）」のみであった。



Q11 研究キャリアを離れた経験



Q11-1 研究キャリアを離れた理由

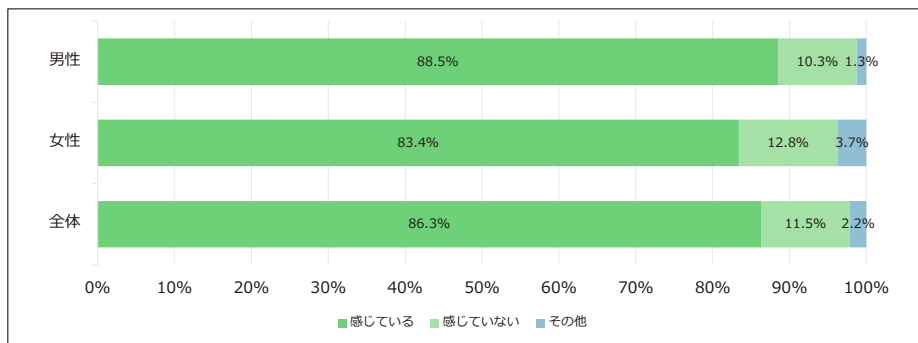


Q11-2 現在の研究（仕事）にやりがいや満足感

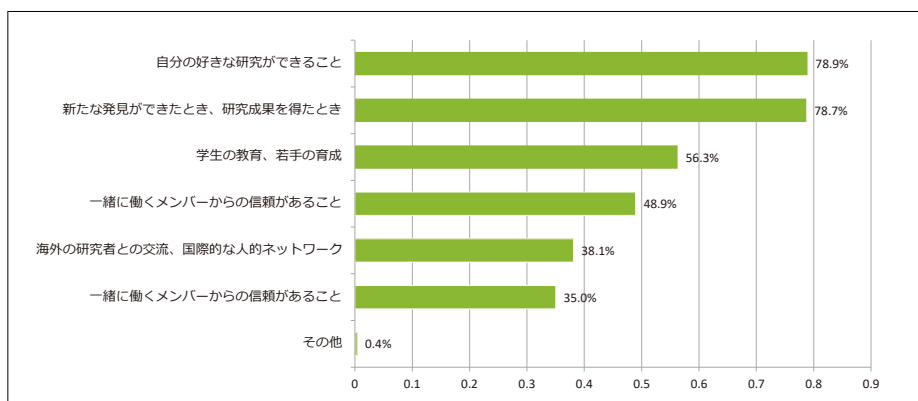
「現在の研究（仕事）にやりがいや満足感」（Q12）については、多くの回答者（男性88.5%（354名）、女性83.4%（156名）、全体86.3%（517名））が、やりがいや満足感を感じていると回答していた。

「現在の研究（仕事）にやりがいや満足感」を感じている回答者（517名（88.2%））に対して、どのようなところにやりがいや満足感を感じているか（Q12-1）問うたところ、「自分の好きな研究ができること」「新たな発見ができたとき、研究成果を得たとき」などが続いた。

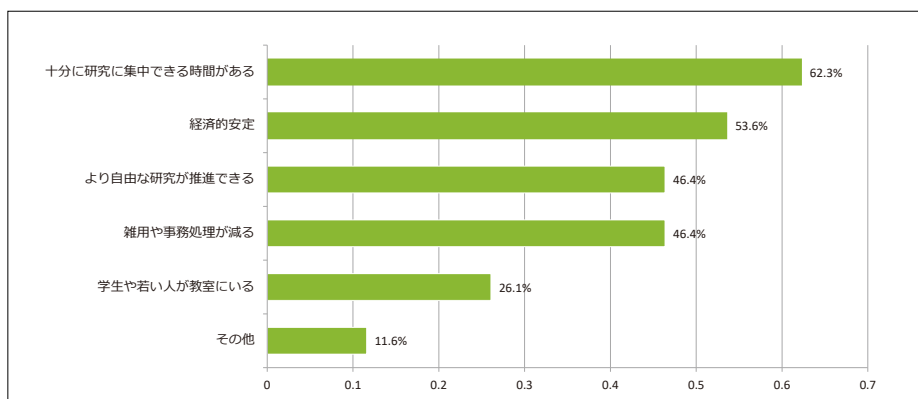
一方、「現在の研究（仕事）にやりがいや満足感」を感じていない回答者（69名（11.8%））に「研究（仕事）がどのようになればやりがいや満足感があるか」（Q12-2）を問うたところ、「十分に研究に集中できる時間がある」「経済的安定」「雑用や事務処理が減る」などが多く挙げられた。



Q12現在の研究（仕事）にやりがいや満足感

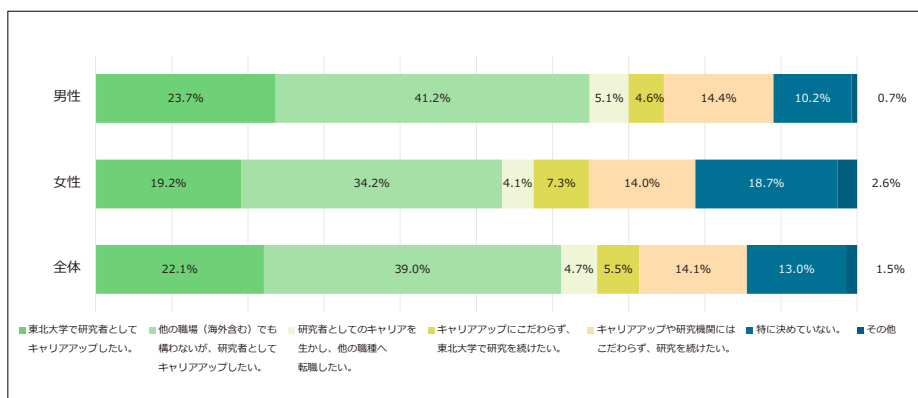


Q12-1 どのようなところにやりがいや満足感を感じているのか



Q12-2 研究（仕事）がどのようになればやりがいや満足感があるか

今後のキャリアについての考え（Q13）を尋ねたところ、男女別に見た場合、研究者としてキャリアアップを希望する者の割合は男性の方が女性よりも高かった。

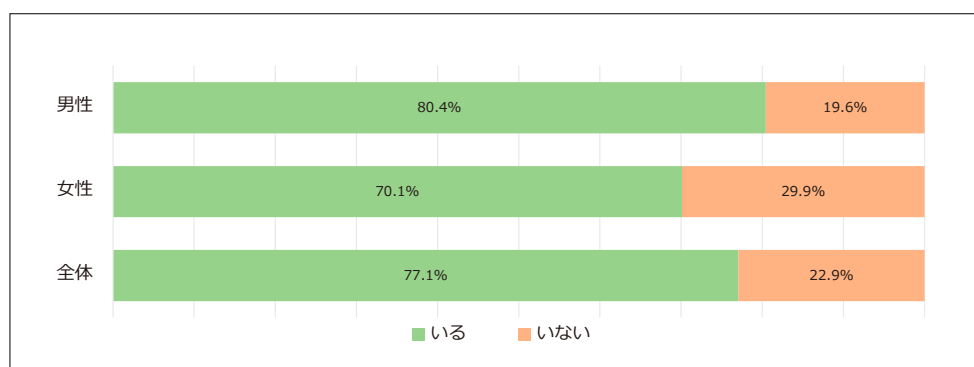


Q13 今後のキャリアについての考え

## 4. ライフ関連

### 4-1. 配偶者（パートナー）について

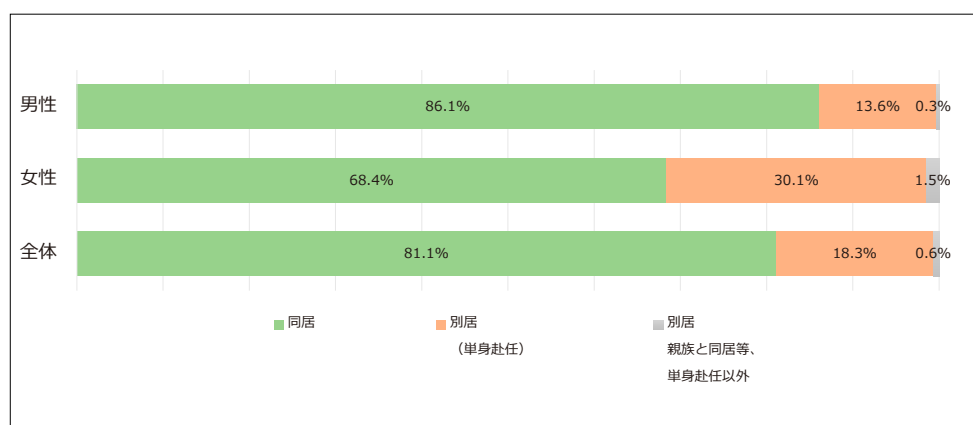
配偶者（パートナー）がいる人といない回答者の割合（Q14）は、それぞれ「いる」77.1%（477名）と「いない」22.9%（142名）であり、配偶者がある回答者が大半を占める。男女別に見たところ、配偶者がいない回答者の割合が男性19.6%（81名）に対して女性29.9%（58名）と、配偶者がいない回答者の割合は女性の方が高かった。



Q14 配偶者（パートナー）の有無

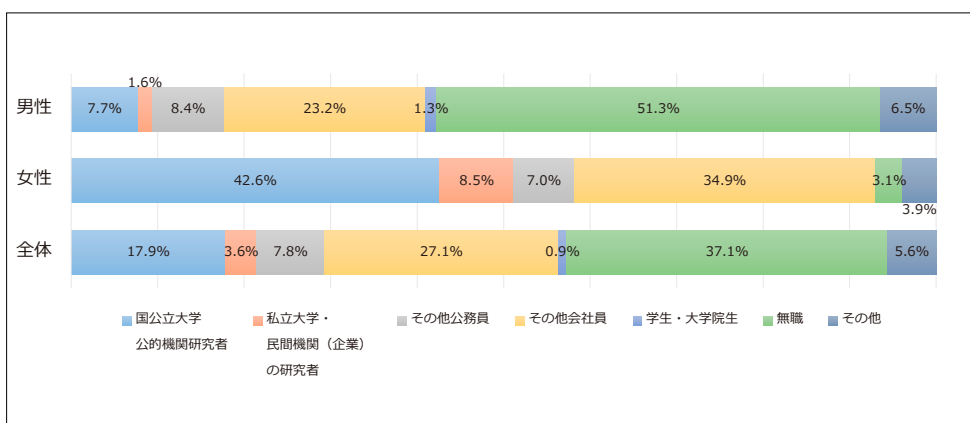
配偶者と同居している人と別居している人の割合（Q14-1）はそれぞれ81.1%（382名）と18.9%（89名）である。男女別では、配偶者と別居している回答者の割合は、男性13.9%（46名）に対して女性31.6%（42名）と、別居住まいしている回答者の割合も女性の方が高かった。

配偶者の職業（Q14-2）について男女別に見たところ、男性の回答者の約半数（51.3%（159名））が「無職」であるとし、一方、女性の場合は「研究者（国公立大学・公的機関もしくは私立大学・民間機関）」を配偶者に持つ回答者が約半数（51.1%（66名））を占めた。



Q14-1 配偶者との同居状況

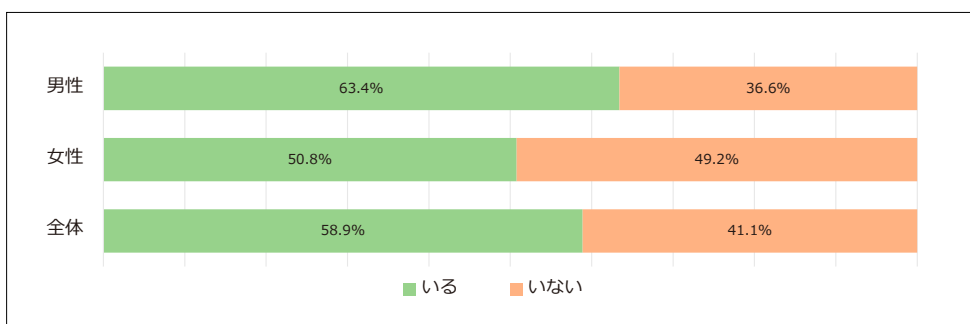




Q14-2 配偶者の職業

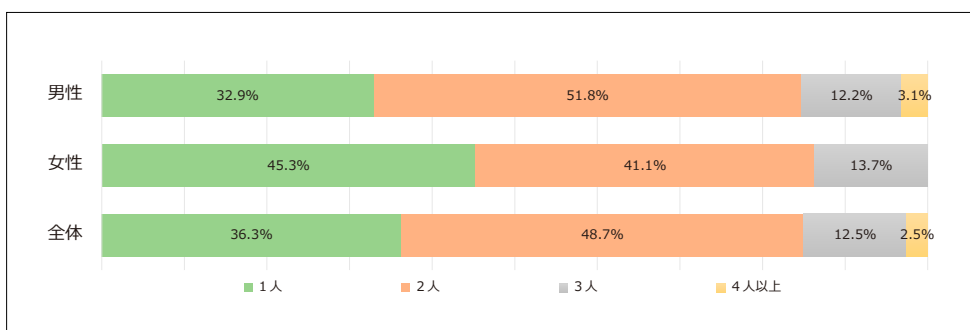
## 4-2. 子どもについて

子どもの有無(Q15)については、子どもがいる回答者は58.9%(361名)、子どもがいない回答者は41.1%(252名)であった。男女別に見た場合、子どもがいる回答者の割合は男性(63.4%)の方が女性(50.8%)よりも高かった。



Q15 子どもの有無

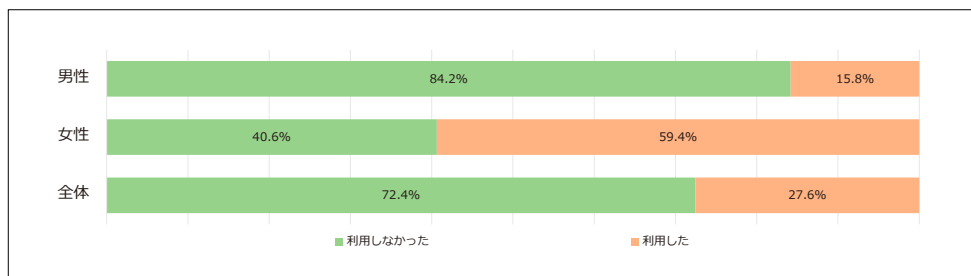
子どもがいる回答者に対して子どもの数を聞いたところ(Q15-1)、男性では子どもの数「2人」(51.8%, 132名)、女性では「1人」(45.3%, 43名)と回答した者が最も多く、男性の方が子どもの数が多い傾向が見られた。



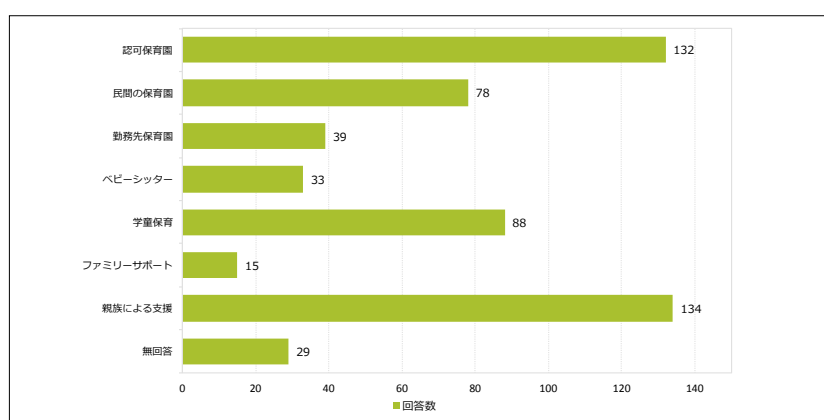
Q15-1 子どもの数

子どもが生まれた際に何らかの制度を利用したかどうか(Q15-3)を尋ねたところ、男性では15.8%(40名)、女性では59.4%(57名)の回答者が制度を利用していた。本人あるいは配偶者が定期的に利用した保育サービス(Q15-4)について尋ねたところ最も多かったのは「親族による支援」24.8%(134名)であり、次いで「認

可保育園」24.4%（132名）であった。保育園の中では、男女問わず「認可保育園」が最も多く、男性12.6%（68名）、女性11.9%（64名）であった。「勤務先保育園」は男性3.0%（16名）、女性では4.1%（22名）であり、「認可保育園」や「民間の保育園」よりも依然として回答者が少ない傾向が見出された。



Q15-3 子どもが生まれた際に何らかの制度を利用したかどうか

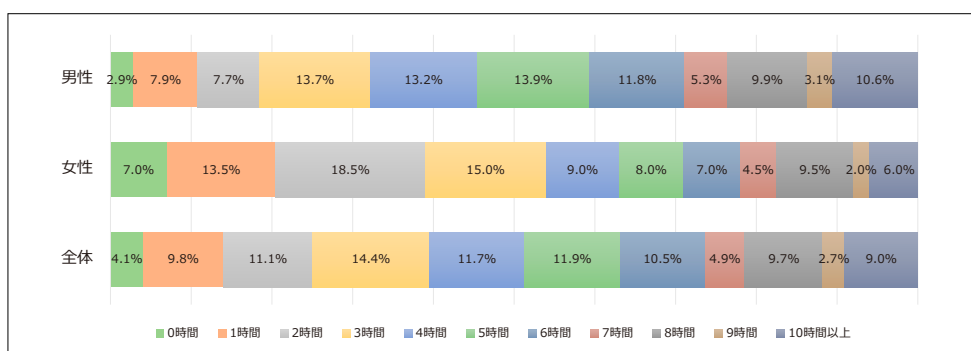


Q15-4 本人あるいは配偶者が定期的に利用した保育サービス

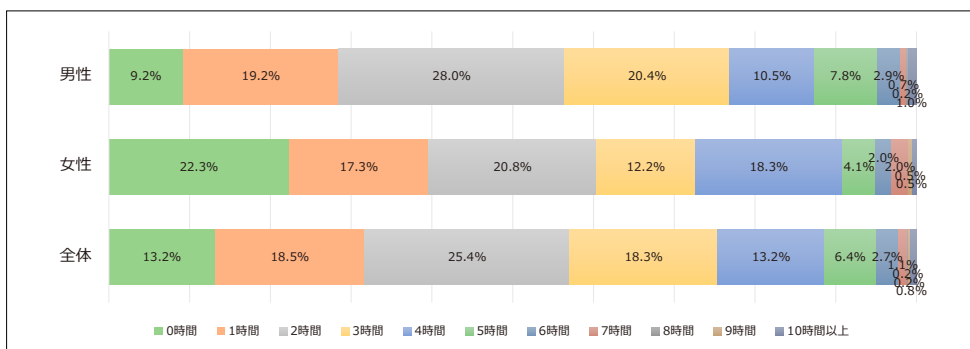
### 4-3. 時間の使い方

平日の時間配分については（Q16）、1日に費やす平均時間（※）を尋ねたところ、1日に「研究」に費やす時間は、男性304.5分間、女性239.4分間、「教育」は男性150.9分間、女性134.9分間、「運営」は男性137.2分間、女性128.7分間、であり、男性の方がこれらの活動に費やす時間は長い傾向が見られた。逆に、1日に「診療」に費やす時間では男性10.3分間に対して女性は40.5分間、「家事・育児・介護」に費やす時間は、男性93.7分間に対して女性179.7分間、であり、女性の方が長い傾向が見られた。

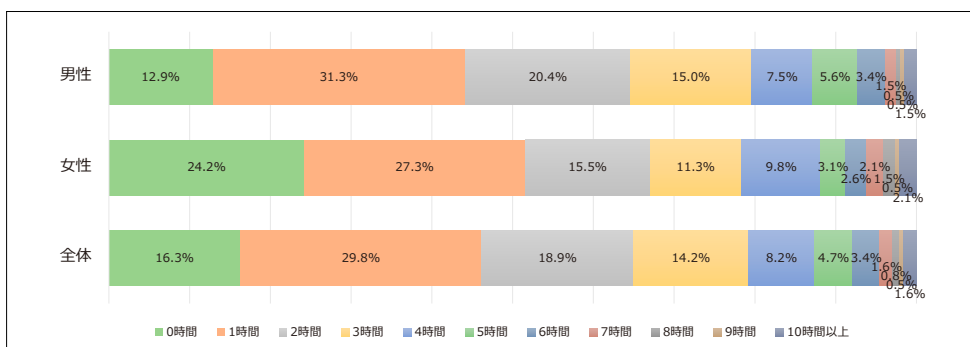
（※但し「10時間以上」と答えた回答を10時間として平均時間を算出。）



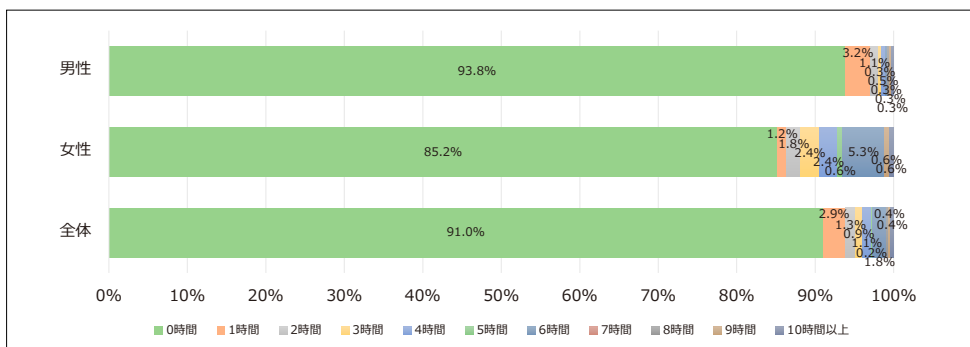
Q16 1日に【研究】に費やす時間



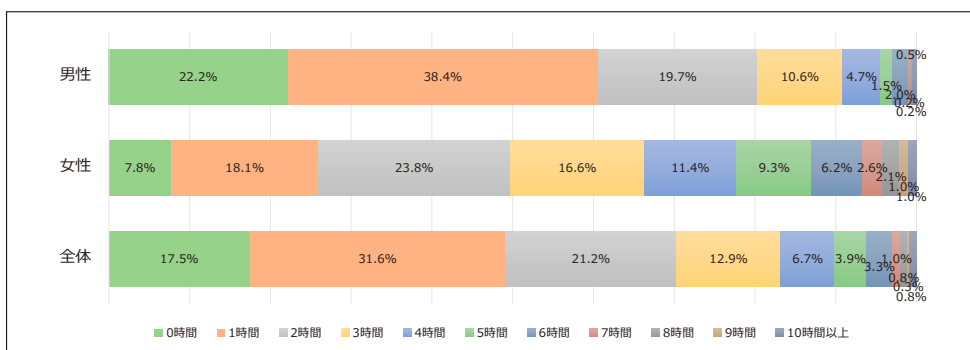
Q16 1日に【教育】に費やす時間



Q16 1日に【運営】に費やす時間

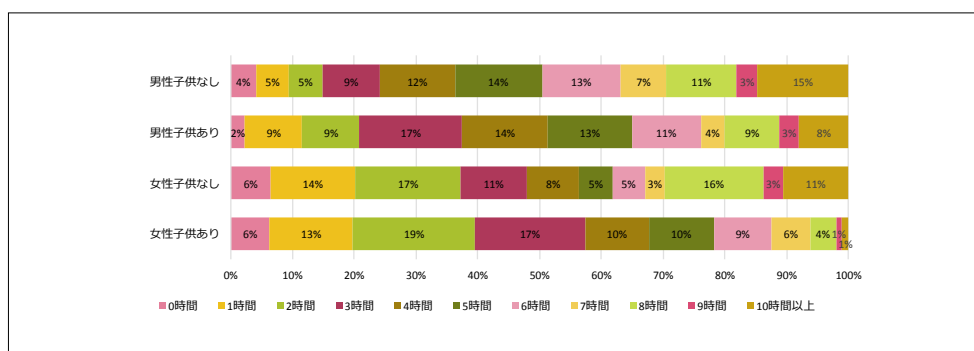


Q16 1日に【診療】に費やす時間

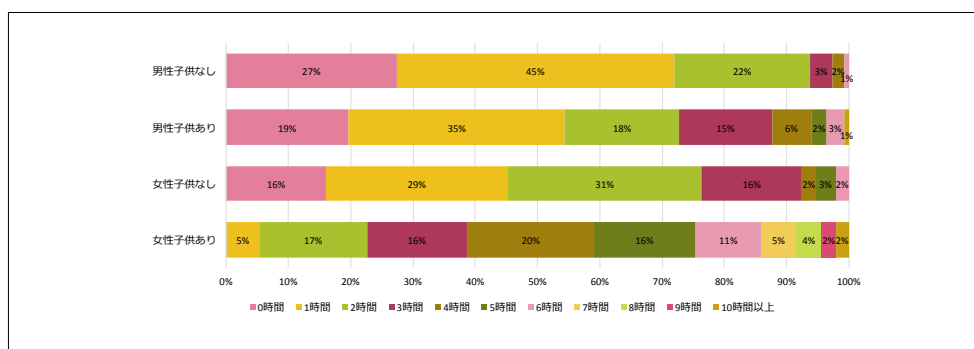


Q16 1日に【家事・育児・介護】に費やす時間

1日に費やす平均時間について (Q16)、「性別」に「子供の有無」を加えてさらに分類すると、1日に「研究」に費やす時間は「男性」よりも「女性」が、「子供なし」よりも「子供あり」の方が短く、これとは逆に、1日に「家事・育児・介護」に費やす時間は、長くなる傾向があることが判明した。



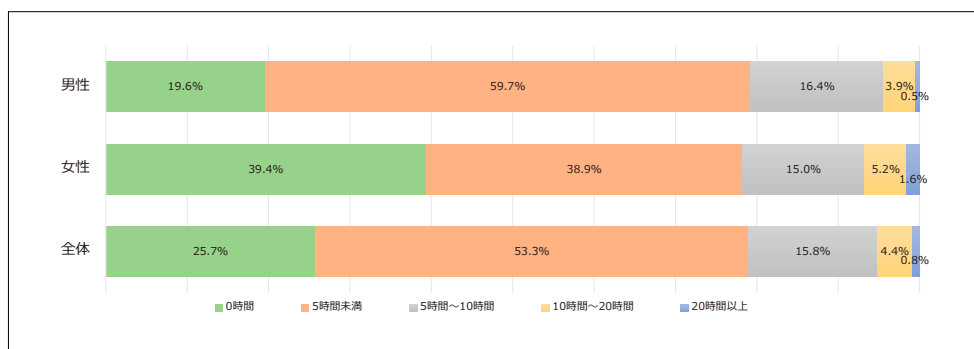
Q16 1日に【研究】に費やす時間（子どもの有無・男女別）



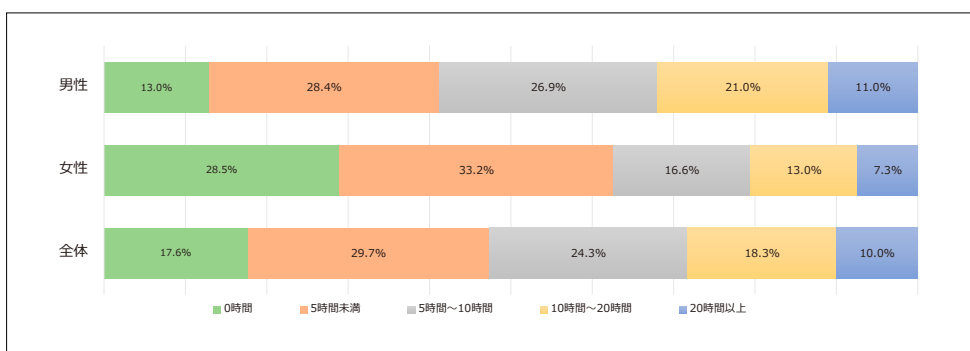
Q16 1日に【家事・育児・介護】に費やす時間（子どもの有無・男女別）

1日に「家事・育児・介護」に費やす平均時間（※）はそれぞれ、「男性子供なし」66.6分間、「男性子供あり」109.8分間、「女性子供なし」106.5分間、「女性子供あり」256.8分間であり、「男性」の平均である93.7分間と「女性子供あり」256.8分間では、1日に平均163.1分間の差が見出された。

教育活動について（Q17-1）、昨年度の1週間あたり「授業・実習」に費やす時間の平均は、「0時間～5時間未満」が合計で8割近くを占め、男性の方が女性よりも活動時間が長い傾向が見られた（Q17-1a）。「学生の研究指導」に費やす時間については、5時間以上費やしている回答者が半分以上を占め、やはり男性の方が女性よりも活動時間が長いことが判明した（Q17-1b）。



Q17-1a 1週間あたり「授業・実習」に費やした時間（昨年度の教育活動）

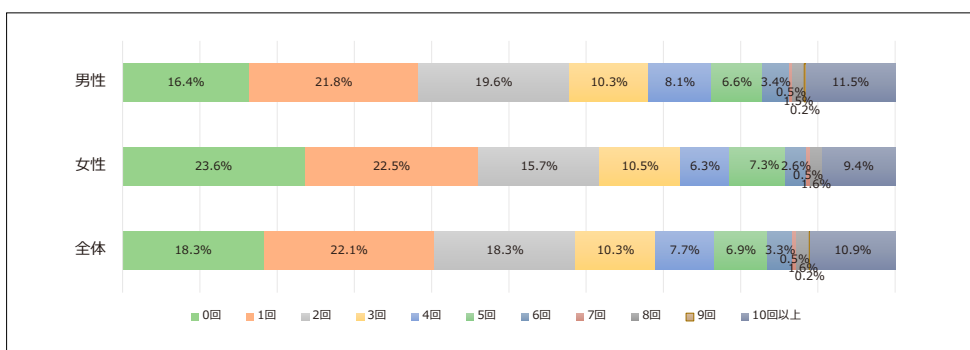


Q17-1b 1週間あたり「学生の研究指導」に費やした時間（昨年度の教育活動）

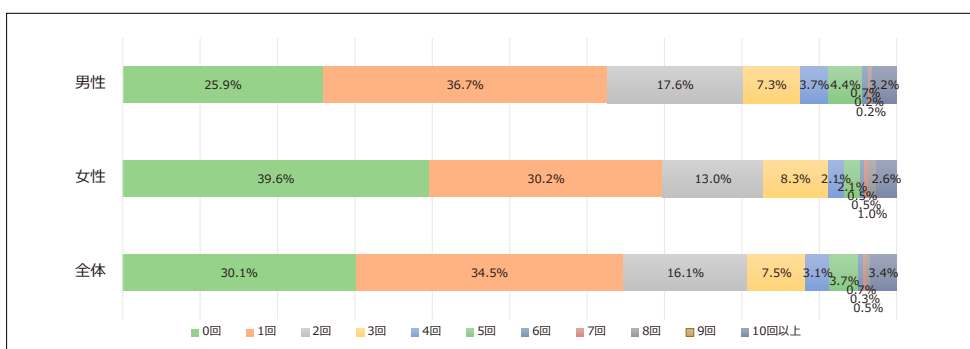
昨年度の「学内の会議・委員会等への出席」について（Q17-2）、月あたりの平均回数を尋ねたところ、「2回以内」の回答者（内訳：0回18.3%、1回22.1%、2回18.3%、合計58.7%）が多くを占めるのに対し、「10回以上」と答えた回答者も10.9%と相当数いた。男性の方が女性より出席回数が多い傾向があった（Q17-2a）。

昨年度の「学外の会議・委員会等への出席」について、月あたりの平均した回数を尋ねたところ、「0回」が19.5%、「1回」が11.5%であったと同時に、「10回以上」と答えた回答者も相当数（21.5%）おり、会議等への出席負担は両極化していた。男性の方が女性より出席回数が多い傾向があった（Q17-2b）。

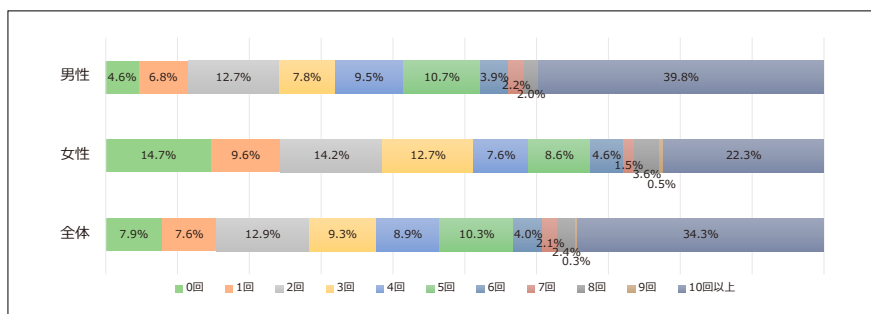
その他、昨年度1年間の「研究活動に関する国内出張」について（Q17-3）、男性は「10回以上」（39.8%）が最も多いのに対し、女性は「10回以上」（22.3%）であり、男性が多く女性の方が少ない傾向が示された。昨年度1年間の「学術誌等への掲載論文数」、「書籍の執筆」ならびに「特許の出願数」についても、男性の方が女性よりも多い傾向が示された。



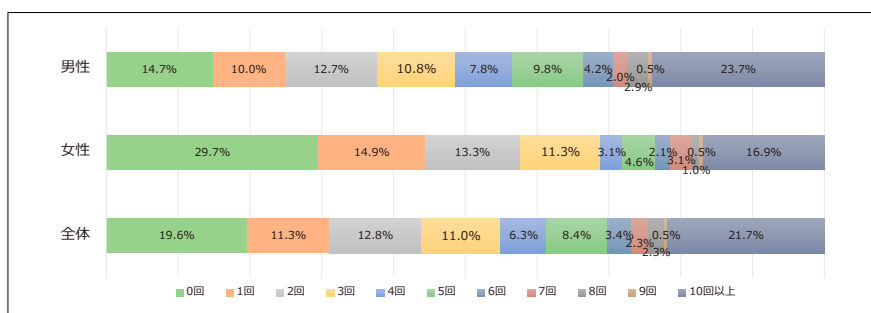
Q17-2a 学内の会議・委員会等への出席（昨年度）



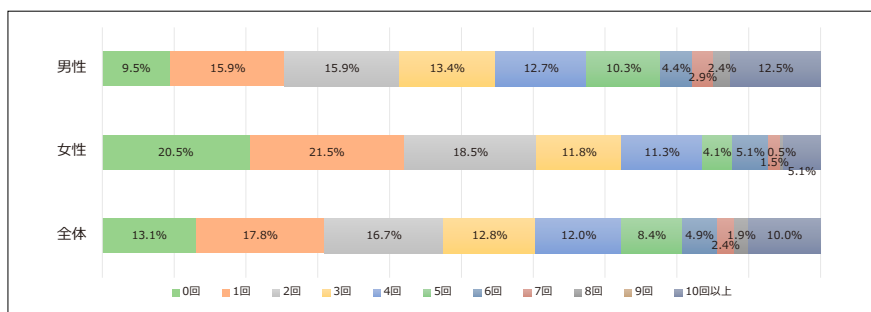
Q17-2b 学外の会議・委員会等への出席（昨年度）



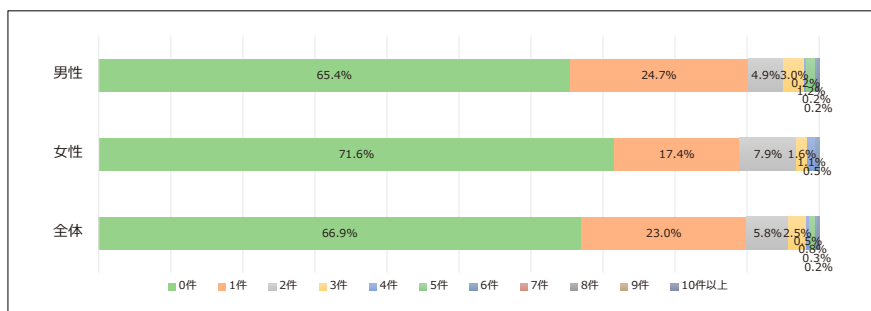
Q17-3a 国内の出張（昨年度）



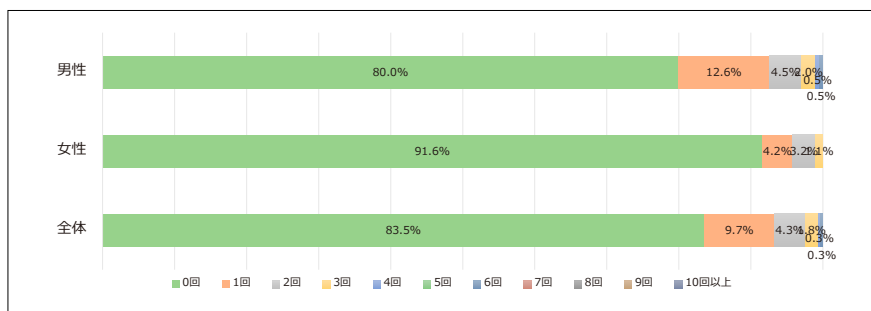
Q17-3b 学外の会議（昨年度）



Q17-3c 学術誌（昨年度）



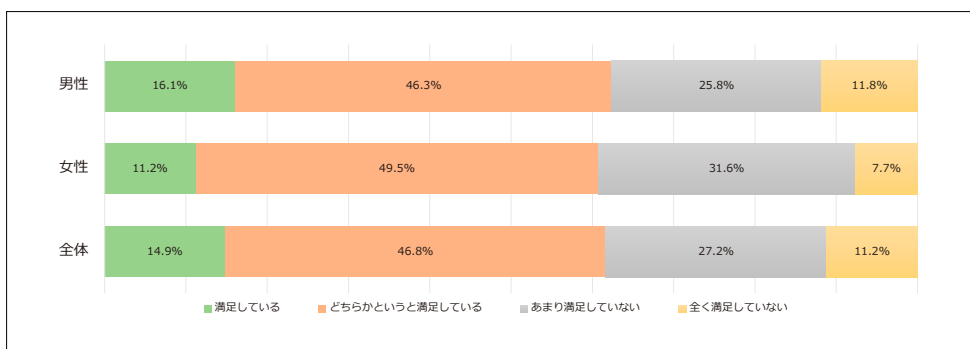
Q17-3d 書籍の執筆（昨年度）



Q17-3e 特許の出願数（昨年度）

#### 4-4. ワークライフバランスへの満足状況

現在の生活のワークライフバランスへの満足度を尋ねたところ（Q18）、「満足している」14.9%（93名）もしくは「どちらかという満足している」46.8%（293名）と回答した者が61.7%（386名）と過半数を超え、満足している回答者が多い。「あまり満足していない」あるいは「全く満足していない」を選択した回答者は、男性で37.6%（156名）、女性では39.3%（77名）であり、男女間に大きな差は見られなかった。



Q18 ワークライフバランスへの満足度

#### 5. 男女共同参画・女性研究者支援

回答者自身の男女共同参画・研究者支援に関する取組（Q19）として該当するもの全てを選んでもらったところ、「学内での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに出席したことがある。」が最も多く163名（25.5%）であった。「学外での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに出席したことがある。」も90名（14.1%）が選んでおり、男女共同参画・女性研究者支援への取組の中では、学内外の男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに積極的に参加している様子が見られる。

回答	回答数	%
東北大学（研究科内も含む）の男女共同参画担当委員を経験したことがある。	71	11.1
学外（学会・公的機関等）の男女共同参画担当委員を経験したことがある。	26	4.1
学内での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに、運営担当あるいは講師等として関わったことがある。	49	7.7
学内での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに出席したことがある。	163	25.5
学外での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに、運営担当あるいは講師等として関わったことがある。	36	5.6
学外での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに出席したことがある。	90	14.1
男女共同参画に関わる支援を受けたことがある。	72	11.3
その他	41	6.4
無回答	137	21.5
回答数合計	685	
回答者数	638	

Q19

本学における男女共同参画に関する推進体制（Q20）として、以下a～cについて知っているかどうかを答えてもらったところ、a.男女共同参画委員会は361名（56.6%）、b.男女共同参画推進センターは389名（61%）、c.東北大学における男女共同参画推進のための行動指針は219名（32.9%）が、それぞれ知っていると回答した。

両立支援・環境整備（Q21）の取組である以下a～fについて、「利用したことがある」と回答した者は、a.川内けやき保育園25名（4.4%）、b.青葉山みどり保育園11名（2.0%）、c.星の子保育園15名（2.7%）、d.星の子ルーム（軽症病児および病後児保育）40名（7.1%）、e.研究支援要員23名（4.1%）、f.ベビーシッター利用料等補助30名（5.3%）、であった。また、「利用したことがない」理由として「知らない（なかった）」と回答した者は、a.川内けやき保育園48名（8.9%）、b.青葉山みどり保育園60名（10.9%）、c.星の子保育園74名（13.5%）、d.星の子ルーム90名（17.2%）、e.研究支援要員205名（37.8%）、f.ベビーシッター利用料等補助146名（27.3%）、であった。

女性リーダー育成（Q22）の取組である以下a～fについて、「利用したことがある」と回答した者は、a.リーダー研究支援要員10名（1.8%）、b.スタートアップ研究費53名（9.2%）、c.研究スキルアップ経費36名（6.3%）、d.「科学研究費助成事業」フォローアップ44名（7.7%）、e.国際学術論文作成のための英文校閲費用補助23名（3.9%）、f.沢柳フェローランチミーティング58名（9.8%）、g.TUMUGForum（女性研究者研究発表・交流会）49名（8.3%）、であった。また、「利用したことがない」理由として「知らない（なかった）」と回答した者は、a.リーダー研究支援要員273名（49.1%）、b.スタートアップ研究費184名（35.5%）、c.研究スキルアップ経費266名（49.4%）、d.「科学研究費助成事業」フォローアップ216名（41.1%）、e.国際学術論文作成のための英文校閲費用補助285名（51.5%）、であった。

次世代育成（Q23）の取組として、以下a～gについて「あなた」、あるいは「あなたの指導する学生」が参加した、または採択されたことがあるかどうか尋ねたところ、a.サイエンス・エンジェルは122名（21.4%）が、b.仙台Iボインタクラブ 東北大学大学院女子学生海外渡航支援事業は14名（2.7%）が、それぞれ「ある」と回答した。

広報活動として（Q24）、平成14年度から毎年1回開催している「男女共同参画シンポジウム」に参加したことがある回答者は127名（21.0%）、平成26年から年数回発行して全教職員に配布している「TUMUGニューズレター」を読んだことがある回答者は363名（59.7%）に上った。

## 6. まとめと考察

本調査は研究に従事している東北大学の教職員を対象とし、平成30年12月14日から平成31年1月15日に、Web上アンケートとして実施された。全対象者4473名の内、638名より回答を得て、回答率は14.3%であった。回答者の65.7%が男性、女性は31.8%であった。平成28年度に実施した前回の第1回アンケート調査（※）では回答率が11.5%であり、回答者の67.5%が男性、女性は30.6%であったことと比較すると、回答率は若干上昇し、回答者の男女比率は大きく変わらなかった。

研究キャリアに関する質問で、今までに研究者としてのキャリアを離れた経験は女性が男性の約3.5倍程度多く、離れた期間も男性より長く、女性の場合はその理由の約6割がライフイベントによるものであったことから、前回の調査（※）と同様に、依然としてライフイベントが女性研究者のキャリア継続の上で大き



な壁となっていることが伺われる。

生活面に関する質問では、「配偶者（パートナー）がいない」回答者の割合は男性よりも女性が高く、「配偶者と別居」の回答者の割合も男性より女性の方が高く、「子どもがいる割合」は女性よりも男性の方が高かった。これらの割合も前回の調査（※）から大きな変化は見られず、女性研究者は男性よりも家庭生活の面で困難を抱えていることが明らかとなった。

平日の時間配分として、1日に「研究」に費やす時間は「男性」よりも「女性」、「子供なし」よりも「子供あり」の方が短く、逆に、1日に「家事・育児・介護」に費やす時間は、長くなっていることが判明した。これらより、女性研究者は未だ研究活動と家庭運営や生活面の両立に高いハードルを抱えていることが示唆され、特に「女性子供あり」の場合、「家事・育児・介護」に多くの時間を費やしており「研究」時間の確保が難しくなっている状況が浮き彫りとなった。

東北大学における男女共同参画・女性研究者支援事業については、知名度ならびに参加・利用割合、ともに前回調査（※）よりも改善がみられるものの、項目によって未だ低い状況にあることが判明したため、引き続き広報活動を充実させていく必要がある。この他、自由記述では東北大学における男女共同参画・女性研究者支援事業に関して数多くの意見・要望が寄せられているため（※）、将来的に、これらの意見を有効に活用しながら、男女共同参画推進事業を展開する必要がある。

※本アンケート調査（平成30年度第2回）ならびに前回アンケート調査（平成28年度第1回）結果の詳細データ（自由記述を含む）は、東北大学男女共同参画推進センター（TUMUG）WEBページ（URL:<http://www.tumug.tohoku.ac.jp/>）内の、「研究環境に関するアンケート」実施報告の項を参照いただきたい。